

# 東京医科歯科大学 内科専門研修プログラム



TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

2024年4月1日

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会 Web サイトにてご参照ください。

※2024年10月 東京医科歯科大学は東京科学大学に名称が変更します。

# 東京医科歯科大学内科専門研修プログラム

## 目次

1.	東京医科歯科大学内科専門研修プログラムの理念・使命・特性	2
2.	研修プログラムの概要	4
3.	内科専門研修の到達目標	6
4.	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	7
5.	学問的姿勢	7
6.	医師に必要な倫理性，社会性	8
7.	研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方	8
8.	研修コース	9
9.	内科専門研修の評価	11
10.	専門研修プログラム管理委員会	11
11.	専攻医の就業環境（労務管理）	11
12.	専門研修プログラムの改善法	12
13.	修了判定	12
14.	内科専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと	13
15.	研修プログラムの施設群	13
16.	専攻医の受入数	13
17.	Subspecialty 領域	14
18.	研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件	14
19.	内科専門研修指導医	15
20.	専門研修実績記録システム，マニュアル等	16
21.	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	16
22.	専攻医の採用と修了	16
	（資料1）東京医科歯科大学内科専門研修プログラム研修コース	17
	（資料2）内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について	18
	（資料3）東京医科歯科大学内科専門研修連携施設	19
	（資料4）東京医科歯科大学内科専門研修特別連携施設	21
	（資料5）東京医科歯科大学内科専門研修プログラム管理委員会・研修委員会	22
	（別添1）東京医科歯科大学内科専門研修プログラム連携施設情報	
	（別添2）東京医科歯科大学内科専門研修プログラム特別連携施設情報	

# 東京医科歯科大学内科専門研修プログラム

## 1. 東京医科歯科大学内科専門研修プログラムの理念・使命・特性

### 理念【整備基準1】

- 1) 東京医科歯科大学内科専門研修プログラム（以下、本研修プログラム）は、東京医科歯科大学病院を基幹施設として、茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県・東京都内近隣医療圏にある連携施設および特別連携施設で内科専門研修を行います。東京都にとどまらず、他県の各医療圏で研修を積むことにより、都心や各地域を理解した医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後は、内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合と高度な総合内科の Generality を獲得する場合、もしくは内科系集中治療医を目指す場合を想定して、複数のコース別に研修をおこなって内科専門医を育成します。
- 2) 初期臨床研修を修了した医師は、本研修プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設1年以上+連携施設および特別連携施設1年以上）で、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、「研修カリキュラム（項目表）」に定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

### 使命【整備基準2】

- 1) 内科専門医として、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本研修プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。大学院を併設しているため、大学院へ入学することにより高度な臨床研究が可能なのが特徴です。

### 特性

- 1) 本研修プログラムは、東京都の東京医科歯科大学病院を基幹施設として、茨城県・千葉県・

埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県，東京都内医療圏の 59 連携施設と研修病院群を形成し研修を行います。東京都および他県で内科専門研修を行いながら，それぞれの地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように育成します。

- 2) 本研修プログラムでは，症例をある時点で経験するというだけでなく，主担当医として，入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 連携施設と基幹施設での 2 年間（専攻医 2 年次修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できます。そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，日本内科学会病歴要約評価ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます。また，剖検症例を専攻医 2 年次修了時まで経験できるようにローテーションを組みます。
- 4) 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，2 年以内で立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって，内科専門医に求められる役割を実践します。さらに地域の診療所からなる特別連携施設で，プライマリ・ケア領域における家庭医療，医療連携や健診などの予防医学を研修します。
- 5) 専攻医 3 年修了時で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できる体制とします。そして可能な限り，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします。

### 専門研修の目標および専門研修後の成果【整備基準 3】

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し，内科慢性疾患に対して，生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な，地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で，内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち，総合内科医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で，総合内科（Generalist）の視点から，内科系 Subspecialist として診療を実践します。

- 5) 内科的視点を持った集中治療医：内科系領域における広い知識と診断能力を有する集中治療医として、重症疾患の診療と管理を実践します。

本研修プログラムでは東京医科歯科大学病院を基幹病院として、多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

## 2. 研修プログラムの概要 【整備基準：13～16, 30】

- 1) 初期研修修了後、内科専門医取得を目指す医師（以下、内科専攻医）は、本研修プログラムで3年間（以上）の研修を行います。
- 2) 専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム（項目表）」にもとづいて、内科専門医が取得すべき知識・技能の到達目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。
- 3) 内科専攻医は、「研修手帳（疾患群項目表）」に示す70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類されている疾患群に提示されているいずれかの疾患を順次経験していきます。内科専攻医の経験は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)へ登録され、それを指導医が評価と承認を行うことにより内科専攻医の目標を達成させます。日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)は、研修委員会で管理し、各専攻医の経験はリアルタイムに把握することができるので、定期的に専攻医の経験の漏れを無くすようなシステムで内科専攻医をサポートしていきます。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

### <専門研修1年次>

- 症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、20疾患群以上、60症例以上を主担当医として経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に症例登録することを目標とします。指導医は、症例登録内容を確認して、「医学的アプローチ」「医学的考察」「全人的アプローチ」「症例経験からの省察」および「全体評価」の各項目について評価し、症例経験を承認します。また内科専攻医は専門研修修了に必要な病歴要約を10編以上記載して、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い、担当指導医がフィードバックを行います。

### <専門研修2年次>

- 疾患：内科専攻医2年次修了時には、「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、通算で45疾患群以上、120症例以上を（できるだけ均等に）主担当医として経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することを目標とします。指導医は、症例登録内容を確認して、「医学的アプローチ」「医学的考察」「全人的アプローチ」「症例経験から

の省察」および「全体評価」の各項目について評価し、症例経験を承認します。次に内科専攻医は病歴要約 29 症例を登録し、指導医からの形成的な指導を受けて、日本内科学会病歴要約評価ボードによる評価に合格できる段階まで完成します。

- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

#### <専門研修 3 年次>

- 疾患：内科専攻医 3 年次修了時点で，主担当医として，「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群，計 200 症例の経験を目標とします。但し，修了要件は「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 56 疾患群，そして 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)へ登録します。指導医は，症例登録内容を確認して，「医学的アプローチ」「医学的考察」「全人的アプローチ」「症例経験からの省察」および「全体評価」の各項目について評価し，症例経験を承認します。既に登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます。専門研修の症例経験として，初期研修時での症例経験で下記要件をみたす症例においては，認めることとします。
- 技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります。

#### [初期研修の症例取り扱いについて]

以下の条件を満たすものに限り，その取り扱いを認めます。

- ① 日本内科学会指導医が直接指導をした症例であること。
- ② 主たる担当医としての症例であること。
- ③ 直接指導を行った日本内科指導医が内科領域専門医としての経験症例とすることの承認が得られること。
- ④ 内科領域の専門研修プログラムの統括責任者の承認が得られること
- ⑤ 内科領域の専門研修で必要とされる修了要件 160 症例のうち 1/2 に相当する 80 症例を上限とすること。病歴要約への適用も 1/2 に相当する 14 症例を上限とすること。

#### [専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験]

- ① 専攻医 1 年目は指導医管理の下，専攻医 2 年目以降も初診を含む外来（1 回／週以上）を通算で 6 か月以上行います。
- ② 当直を経験します。

#### 4) 臨床現場を離れた学習

①大学領域別内科の症例カンファレンス，②最新のエビデンスや病態・治療法について初期研修医および内科専攻医対象のイブニングセミナーが開催されており，それを聴講し，学習します。受講歴は登録され，充足状況が把握されます。内科系学術集会，JMECC（内科救急講習会）等においても学習します。

#### 5) 自己学習

「研修カリキュラム項目表」にある疾患について，内科系学会が行っているセミナーのDVDやオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜DVDの視聴ができるよう図書館または e-learning（予定）の設備を準備します。また，日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き，内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に1回，指導医や上級医の診療科との Weekly summary discussion や診療科でのカンファレンスを行い，その際，当該週の自己学習結果を指導医が評価し，日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に記載します。

#### 6) 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから，臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。臨床系大学院へ進学しても専門医資格が取得できる社会人大学院制度も用意されています。ただし研修修了要件は同一ですので，内科専攻医の研修到達度を勘案しながら大学院進学を内科講座責任者と相談していきます。

### 3. 内科専門研修の到達目標【整備基準：4，5，8～11】（p.4 項目 2-3）参照

#### 1) 3年間の専攻医研修期間で，以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

- ① 70に分類された各疾患群のうち，最低56の疾患群から1例を経験すること。
- ② 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)へ症例(定められた200件のうち，最低160例)を登録し，それを指導医が確認・評価すること。
- ③ 登録された症例のうち，29症例を病歴要約として日本内科学会病歴要約評価ボードへ提出し，査読委員から合格の判定をもらうこと。
- ④ 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針を決定する能力，基本領域専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナルリズム，自己学習能力を修得すること。

なお，習得すべき疾患，技能，態度については多岐にわたるため，「研修カリキュラム項目表」を参照してください。

#### 2) 専門知識について

内科研修カリキュラムは総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病および類縁疾患，感染症，救急の13領域から構成されています。東京医科歯科大学には11の内科系診療科があり，すべての診療科で複数領域を担当している

す。また、救急疾患は各診療科や救命救急センター、集中治療科によって管理されています。東京医科歯科大学においては、各内科領域の疾患を重点的に研修する体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。連携施設は 59 施設を擁しており専門研修施設群を構築することで、内科全般的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、都内地域または他県病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

#### 4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得【整備基準：13】

東京医科歯科大学病院での教育体制について記載します。

##### 1) グループ回診

朝または夕方に、患者申し送りを行い、グループ回診を行って指導医や上級医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

##### 2) 入院患者カンファレンス：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

##### 3) 診療グループカンファレンス：診療科の中でのサブグループによる回診。内科専攻医が担当している症例を報告し、指導医や上級医からのフィードバック、質疑などを行います。

##### 4) CPC：死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討します。

##### 5) 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、様々な視点から症例を学びます。

##### 6) 研究報告会（リサーチカンファレンス）：研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。

##### 7) Weekly summary discussion：週に1回、指導医や上級医と行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に記載します。

##### 8) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で、医学科臨床実習学生や初期研修医を指導します。後輩を指導することは、“Teaching is learning”であり、自分の知識を整理・確認することにつながります。これまで本学では、初期研修医が学生を指導することが実践されてきているため、さらに発展させて、専攻医は初期研修医と学生を指導することを目標とします。

#### 5. 学問的姿勢【整備基準：6, 30】

内科専攻医は下記に示す学問的姿勢を持つことが望ましいです。本研修プログラムでは、各項目について、専門研修で経験した症例、学会報告、論文作成を通じて、内科専攻医が学問的姿勢

を生涯にわたり保ち続けるようにします。

- 1) 患者から学ぶ姿勢を基本とする。
- 2) 科学的な根拠にもとづいた診断、治療を行う (EBM; Evidence based medicine)。
- 3) 最新の知識、技能を常にアップデートする (生涯学習)。
- 4) 診断や治療の Evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。
- 5) 症例報告を通じて深い洞察力を磨く。

## 6. 医師に必要な倫理性、社会性【整備基準：7】

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。

東京医科歯科大学病院（基幹施設）と連携施設において症例経験や技術習得に関して履修し、特に連携施設において、地域住民に密着し、病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより、地域医療を実施します。また大学病院での研修中には、地域の診療所を特別連携施設として、より地域に密着した医療を経験します。本研修プログラムでは複数施設での研修を全てのコースにおいてその経験を積み、診療所、地域中核病院、大学病院という様々な医療レベルでの診療を研修することが可能です。

地域医療を経験するため、連携施設（59 施設の中から）や特別連携施設での研修期間を設けています。連携施設は、主に地域で中核となる医療機関が多いため、Common disease を始めとした内科領域全般の疾患を研修し、さらに内科 Subspecialty 領域も研修することが可能です。入院症例だけでなく外来症例も経験し、内科専門医の基本となる診療能力、知識、スキル、態度を身につけることが出来ます。なお、連携病院へのローテーションを行うことで、地域においては、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持に貢献します。

基幹施設、連携施設、特別連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に 2 回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。また、東京医科歯科大学病院での研修期間中は病院職員研修として開催される医療倫理講習会への出席を必須とします。出席回数は常時登録されており、講習会当日に参加できない場合は、e-learning で受講が可能な体制があります。さらに院内にある総合教育研修センターで受講履歴が管理する体制がすでに確立しており、個人にフィードバックされ、受講を促されます。

## 7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方【整備基準：25, 26, 28, 29】

東京医科歯科大学病院（基幹施設）、連携施設および特別連携施設において症例経験や技術習得に関して履修し、地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、すべての専攻医においてその経験を求めます。

地域医療を経験するため、連携施設（59 施設の中から）と特別連携施設での研修期間を設けています。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。本学はこれまで 30 年以上も茨城県、埼玉県や長野県といった医師の少ない地域へ医師を派遣しており、本研修プログラムでも連携施設として同地域の施設で研修を行います。連携施設では、内科の Common disease の経験が豊富であり、「研修手帳（疾患群項目表）」で定められた症例の経験を十分に研修することができます。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。

## 8. 研修コース【整備基準：16, 25, 31】

本研修プログラムでは内科専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の3つのコース、内科領域別(11 領域)研修コースと総合内科研修コース、ICU・内科統合研修コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

Subspecialty が未決定、または高度な総合内科専門医を目指す場合は総合内科研修コースを選択します。将来の Subspecialty が決定している専攻医は内科領域別コースを選択します。内科系集中治療医を目指す場合は ICU・内科統合研修コースを選択します。いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後 5～6 年で内科専門医、その後 Subspecialty 領域の専門医取得ができます。

### ① 内科領域別コース

希望する Subspecialty 領域（11 領域：消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器・アレルギー，血液，神経，膠原病，感染症，腫瘍内科のうちから 1 領域）を重点的に研修するコースです。専攻医 1 年次は大学または連携施設で内科 Generality 研修を主としながら Subspecialty 領域の初期トレーニングを開始します。専攻医 2 年次は大学または連携施設で、Subspecialty 領域での研修を重点におきながら、専門研修修了に必要な内科 Generality 研修を行い 45 疾患群以上の経験を目指します。この期間、専攻医は将来希望する内科領域においてロールモデルとする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得への目的意識を高めることができます。専攻医 3 年次には、大学または連携施設における当該 Subspecialty 科において内科研修を継続して Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は、希望する Subspecialty 領域の責任者、プログラム統括責任者が協議して決定します。なお、あくまでも内科専門医研修が主体であり内科専門研修に必要な症例経験（45 疾患群以上）を得られるよう Subspecialty 研修を行います（p.17 資料1 参照）。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決めて頂きます。

<内科研修プログラムの週間スケジュール：脳神経内科の例>

黄色部分は特に教育的な行事です。

時間	月	火	水	木	金	土日	
午前	講師朝回診	クリニカル・カンファレンス	講師朝回診	講師朝回診	講師朝回診	週末日直(1回/月)	
	病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導	入院患者カンファレンス/Weekly Summary discussion/教授総回診	地域医療研修(診療所)	病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導	病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導		
午後	病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導	准教授回診/神経学セミナー/医局会/学会予演/各種クルーズ	病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導	病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導	地域医療研修(診療所)		
	神経筋病理カンファレンス	病棟業務/各種検査業務/学生・初期研修医の指導	グループ回診	臨床免疫・画像カンファレンス	神経生理検査テクニカル・カンファレンス		
	神経生理検査テクニカル・カンファレンス	グループ回診					
	神経生理カンファレンス		stroke カンファレンス(月2回)				
	グループ回診		四科合同カンファレンス(月1回)	グループ回診			グループ回診
グループ回診	リサーチカンファレンス		グループ回診	グループ回診			
夜間	当直(2回/月)						週末当直(1回/月)

月～金の朝または夕方に、上級医や指導医からのフィードバックを受けるグループ回診があります。なお、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

## ② 総合内科コース

内科(Generality)専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度なGeneralistを目指す方も含まれます。Subspecialtyが未定な場合に選択することもあり得ます。総合内科コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医1年目に大学または連携施設で1年間内科Generality研修を行います。専攻医2年目および3年目は大学または連携施設にて、引き続き内科Generality研修を行います。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者、総合内科責任者(総合診療科責任者が兼務)が協議して決定します(p.17 資料1参照)。

## ③ ICU・内科統合コース

内科専門医取得後に集中治療医を目指すコースで、希望するSubspecialty領域もしくはGenerality研修を中心としながら、一定の期間重症管理を集中的に研修するコースです。専攻医1年次には大学または連携施設で1年間内科Generality研修及びSubspecialty領域の初期トレーニングを行います。そのうち一定期間(3ヶ月以上)、ICUにおける超急性期・急性期の集中治療研修を行います。専攻医2年次は大学または連携施設にて、内科Generality研修やSubspecialty領域の研修を継続します。専攻医3年次は大学または連携施設にて、内科研修を継続しながらICUでの集中治療研修を行います。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者、集中治療部責任者、希望するSubspecialtyもしくは総合内科責任者が協議して決定します。

## 9. 内科専門研修の評価【整備基準：17～22】

### ① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録した症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に1回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

研修委員会は指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

### ② 総括的評価

専攻医研修3年次の3月に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29症例の病歴要約の合格、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的には指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

内科専門研修の修了後に実施される内科専門医試験に合格して、内科専門医の資格を取得します。

### ③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（病棟看護師長など）から指名し、年2回（6ヶ月毎）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）で多職種評価を行います。評価法については別途定めるものとします。

### ④ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussionを行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

## 10. 専門研修プログラム管理委員会【整備基準：34, 35, 37, 39】

本研修プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を東京医科歯科大学病院内に設置します。委員には、内科系診療科および総合教育研修センターから1名ずつが選任されています。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。さらに東京医科歯科大学研修委員会委員長はプログラム管理委員会委員も兼任します（p. 22 資料5参照）。

## 11. 専攻医の就業環境（労務管理）【整備基準：40】

研修施設責任者とプログラム統括責任者は、専攻医の適切な労働環境の整備に努め、また専

攻医の心身の健康維持に配慮し、これに関する責務を負います。

「労働基準法」を順守し、東京医科歯科大学においては「就業規則及び給与規則」に従い、連携施設においては、その施設の「就業規則及び給与規則」に従います。専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、「労働基準法」や「労働安全衛生法」に準じます。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含めて）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、各研修施設の処遇規定、就業規則に従いますが、これらが適切なものであるか研修プログラム管理委員会がチェックを行います。育児休暇や介護休暇に関しては、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」に準じます。当直あるいは時間外業務に対しては、各研修施設において専門医や指導医のバックアップ体制を整えます。専攻医のサービス時間は、1 か月単位の変形労働時間を準用し、1 か月を平均して1 週間あたり 40 時間の範囲内において定めるものとしますが、専門研修を行う施設の実態に応じて変更できるものとします。

## 12. 専門研修プログラムの改善方法 【整備基準：49～51】

6 か月毎に研修プログラム管理委員会を東京医科歯科大学病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

専門医機構によるサイトビジットに対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受け、プログラムの改善に繋がります。

## 13. 修了判定 【整備基準：21, 5】

- 1) 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて、以下の修了要件を満たす必要があります。
  - ① 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目指す。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録する。修了認定には、主担当医として通算で 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は 16 症例まで含むことができる）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録済みであること。
  - ② 病歴要約 29 症例分が日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読・形成的評価後に受理されていて、二次評価が完了していること。
  - ③ 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて多職種による 360 度評価と指導医による内科専攻医評価を参照し、医師としての資質が備わっていると承認されること。
  - ④ 技術・技能評価の到達度がプログラムの定める修了要件を満たしていること。
  - ⑤ JMECC 受講歴が 1 回あること。

- ⑥ 医療安全・感染制御・医療倫理に関する講習会を年に2回以上受講歴があること、プログラムの修了要件を満たしていること。
- ⑦ 地域医療の経験について、プログラムの定める修了要件を満たしていること。
- ⑧ 教育活動・学術活動についてプログラムの定める修了要件を満たし、所定回数の内科系学術集会に参加し、学会発表あるいは論文発表を筆頭者で2件以上あること
- ⑨ 研修歴についてプログラムの定める指定期間を満たしていること。

- 2) 上記修了要件を充足していると東京医科歯科大学内科専門研修プログラム管理委員会が確認し、専門研修3年目の3月に東京医科歯科大学内科専門研修プログラム管理委員会での協議の上、統括責任者が修了認定を行います。また、専攻医の事情等で研修を延長する場合は、上記修了要件を充足した時点で修了認定を行います。

#### 14. 内科専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと【整備基準：21, 22】

プログラム管理委員会は3月末までに修了判定を行います。その後、専攻医は日本内科学会の行う専門医認定試験受験の申請を行ってください。

#### 15. 研修プログラムの施設群【整備基準：23～27】

東京医科歯科大学病院が基幹施設となり、東京都・茨城県・千葉県・埼玉県・神奈川県・山梨県・長野県・静岡県・島根県・福岡県の59連携施設（p19 資料3参照）を加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。さらに、東京医科歯科大学病院での研修時には、大学や連携施設では経験しにくいプライマリ・ケア領域の研修や内視鏡・エコーなどの技術研修を強化する目的で、診療所を特別連携施設としました（p.21 資料4参照）。連携施設および特別連携施設は、いずれもこれまで東京医科歯科大学内科と繋がりが深く、後期研修医を受け入れている実績があり、教育の質が担保されています。

#### 16. 専攻医の受入数

- 1) 東京医科歯科大学病院に卒後3年目で内科系講座に入局した専攻医は2024年度54名の実績があり、2024年度開始プログラムの採用専攻医は43名でした。2025年の定員41名と設定します。
- 2) 東京医科歯科大学病院には各医局に割り当てられた雇用人員数に応じて調整します。
- 3) 剖検数は、本学施設では2023年度16件で、連携施設では合計で2022年度480件あり、大学でも連携施設でも剖検経験が可能です。
- 4) 経験すべき症例数の充足について

表. 東京医科歯科大学病院内科診療科別診療実績

2023 年度	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
血液内科	11,141	11,475
膠原病・リウマチ内科	8,316	24,727
糖尿病・内分泌・代謝内科	2,487	21,088
腎臓内科	5,921	14,222
総合診療科	3,032	3,588
消化器内科	7,716	40,848
循環器内科	11,945	27,533
呼吸器内科	12,765	29,124
脳神経内科	10,878	17,891
感染症内科	-	936
緩和ケア科・がんゲノム診療科・臨床腫瘍科	2,792	5,607
合計	76,993	197,039

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全 70 疾患群のうち、70 において充足可能でした。しかし、大学病院では主に Subspecialty 研修を行うことが主であるため、内科全般を経験できる連携施設での経験も加えて大学での経験とで 56 疾患群の修了条件を満たすことができます。

- 5) 大学研修では、地域医療研修を平日午前や午後のうち 1 コマから 2 コマを特別連携施設にて行います。一般内科外来、健康診断業務を担当し、プライマリ・ケア領域の研修を強化させる施設や、消化器内視鏡や腹部エコーといった手技的な研修も修練できるよう施設も特別連携施設として加えました。大学だけでなく、連携施設、特別連携施設を経験して、専攻医のさまざまな希望・将来像をイメージできるよう研修施設群を用意しました。

## 17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、内科領域別コースを選択することになります。ある内科領域コースを選択していても、条件を満たせば内科の他領域コースに移行することも可能です（例えば消化器から呼吸器へ）。内科専門医研修修了後、各領域の専門医（例えば消化器病専門医）を目指します。

## 18. 研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準：33】

- 1) 出産，育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 か月とし，研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 か月を越えた休止の場合は，未修了とみなし，不足分を予定修了日以降に補うこととします。また，疾病やその他の事情等による場合も同じ扱いとします。
- 2) 研修の中断の検討を行う際には，研修管理委員会は当該専攻医及び研修指導関係者と十分話し合い，当該専攻医の専門研修に関する正確な情報を十分に把握します。また，専門研修を

再開する場所（同一の病院で研修を再開予定か，病院を変更して研修を再開予定か。）についても併せて検討します。

研修管理委員会は，当該専攻医がそれまでに受けた研修に係る当該専攻医の評価を行い，当該専攻医が本研修プログラムでの研修を継続することが困難であると認める場合には，統括責任者に対し，当該専攻医の専門研修を中断することを勧告します。

- 3) 専攻医が以下の一に該当する場合には，本研修プログラム管理委員会は専攻医に対し，プログラムの中断を命ずることがあります。
- i) 勤務実績がよくない場合
  - ii) 心身の故障のため職務の遂行に支障があり，又はこれに堪えない場合
  - iii) 公序を乱す行為があった場合
  - iv) 死亡又は行方不明となったとき
  - v) その他職務に必要な適格性を欠く場合
- 4) 研修中に居住地の移動，その他の事情により，本研修プログラムでの研修続行が困難になった場合は，移動先の研修プログラムの研修施設において研修を続行することを原則とします。その際，移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

## 19. 内科専門研修指導医【整備基準：36】

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し，評価を行います。

### 【必須要件】

	必要な条件	2026年までの暫定措置
認定資格	総合内科専門医	認定内科医
臨床経験年数	7年以上（初期研修からカウント）	
業績発表	過去5年間で3篇以上あること （共著者・共同研修者でも可。商業誌は不可）	
その他	研修プログラムに参加している施設で常勤（週4日以上、週32時間以上の勤務）していること （勤務時間が十分であれば、雇用契約上は非常勤でも可）。	

引用：<https://www.naika.or.jp/nintei/j-osler/issue/>

（一般社団法人日本内科学会 HP より）

## 20. 専門研修実績記録システム，マニュアル等【整備基準：41～48】

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルに基づいて行われます。専攻医は別添の専攻医研修実績記録に研修実績を記載し，指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は内科専門研修「研修カリキュラム項目表」に則り，少なくとも年1回行います。

## 21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査）【整備基準：51】

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられ，必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

## 22. 専攻医の採用と修了【整備基準：52，53】

### 1) 採用方法

東京医科歯科大学内科専門研修プログラム管理委員会にて専攻医の応募を受付けます。プログラムへの応募者は，次の方法で問い合わせを行ってください。

- 東京医科歯科大学病院総合教育研修センターの website に記載の担当者に e-mail (naikasenmon@ml.tmd.ac.jp) で問い合わせ
- 希望する内科系診療科へ問い合わせ

担当者より、必要書類を説明し，送付しますので指示に従い提出してください。原則として書類選考および面接(予定)を行い，採否を決定して本人に通知します。

### 2) 研修の修了

全研修プログラム終了後，プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し，研修修了の可否を判定します。

審査は書類の点検と面接試験からなります。

点検の対象となる書類は以下の通りです。

- (1) 専門研修実績記録
- (2) 「経験目標」で定める項目についての記録
- (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
- (4) 指導医による「形成的評価表」

面接試験は書類点検で問題にあった事項について行われます。

以上の審査により，内科専門医として適格と判定された場合は，研修修了となり，J-OSLERより修了証が発行されます。

## (資料1)

### 東京医科歯科大学内科専門研修プログラム研修コース

#### ①内科領域別コース

内科領域別コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を主としながらSubspecialty研修の初期トレーニングを行う。PGY3でJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京医科歯科大学/連携施設で研修 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京医科歯科大学/連携施設で研修 必要な疾患群を経験し、Subspecialty研修を重点的に行う 70疾患群を経験し200症例以上を登録を目標とするが最低56疾患群、160症例以上を経験し登録 2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加 2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は内科一般研修を主として行い内科領域研修を開始する。PGY4で内科一般研修と内科領域研修を並行し45疾患群以上の経験を目指す。PGY5は内科領域研修を重点的に行う。											
その他	研修する施設については、大学の領域別内科と総合教育研修センターでの協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

#### ②総合内科コース

総合内科コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を行う。PGY3でJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、160症例以上を経験し登録 2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加 2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は連携施設で内科一般研修（1-2ヶ月ローテなど）を行う。PGY4とPGY5は大学では総合診療科または連携施設で内科一般研修を続ける。											
その他	研修する施設については、総合内科責任者（総合診療科責任者が兼務）と総合教育研修センターでの協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

#### ③ICU・内科統合コース

ICU・内科統合コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を主とし、ICUでの研修も行う。PGY3でJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修、ICUでの研修を行う。 70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、160症例以上を経験し登録 2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加 2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は大学で内科一般研修を行い、3か月程度ICU研修を行う。PGY4、5は大学の総合診療科または連携施設で内科一般研修を続けながら、ICU研修も行う。											
その他	研修する施設については、ICU責任者、各内科責任者、総合教育研修センターでの協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

(資料2)

内科専門研修において求められる「疾患群」, 「症例数」, 「病歴提出数」について

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数	
分 野	総合内科I(一般)	1	1 <sup>※2</sup>	1		2	
	総合内科II(高齢者)	1	1 <sup>※2</sup>	1			
	総合内科III(腫瘍)	1	1 <sup>※2</sup>	1			
	消化器	9	5以上 <sup>※1※2</sup>	5以上 <sup>※1</sup>			3 <sup>※1</sup>
	循環器	10	5以上 <sup>※2</sup>	5以上			3
	内分泌	4	2以上 <sup>※2</sup>	2以上			3 <sup>※4</sup>
	代謝	5	3以上 <sup>※2</sup>	3以上			
	腎臓	7	4以上 <sup>※2</sup>	4以上			2
	呼吸器	8	4以上 <sup>※2</sup>	4以上			3
	血液	3	2以上 <sup>※2</sup>	2以上			2
	神経	9	5以上 <sup>※2</sup>	5以上			2
	アレルギー	2	1以上 <sup>※2</sup>	1以上			1
	膠原病	2	1以上 <sup>※2</sup>	1以上			1
	感染症	4	2以上 <sup>※2</sup>	2以上			2
	救急	4	4 <sup>※2</sup>	4以上			2
外科紹介症例					2		
剖検症例					1		
合計 <sup>※5</sup>		70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7) <sup>※3</sup>	
症例数 <sup>※5</sup>		200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。

病歴要約はすべて異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

5 例) 「内分泌」2例+「代謝」1例, 「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期研修時の症例は、本研修プログラムの管理委員会が認める内容に限り、その登録が認められる(最大80症例を上限とすること、病歴要約への適用については最大14使用例を上限とすること)。

## (資料3)

## 東京医科歯科大学内科専門研修連携施設

No.	所在地	病院名
1	茨城県	総合病院土浦協同病院
2	茨城県	JA とりで総合医療センター
3	茨城県	ひたちなか総合病院
4	茨城県	常陸大宮済生会病院
5	埼玉県	秀和総合病院
6	埼玉県	埼玉県総合リハビリテーションセンター
7	埼玉県	草加市立病院
8	埼玉県	さいたま赤十字病院
9	千葉県	総合病院国保旭中央病院
10	千葉県	東京ベイ・浦安市川医療センター
11	千葉県	柏市立柏病院
12	千葉県	安房地域医療センター
13	千葉県	亀田総合病院
14	東京都	三楽病院
15	東京都	九段坂病院
16	東京都	虎の門病院
17	東京都	心臓血管研究所付属病院
18	東京都	JCHO 東京山手メディカルセンター
19	東京都	東京都保健医療公社大久保病院
20	東京都	東京都立駒込病院
21	東京都	永寿総合病院
22	東京都	同愛記念病院
23	東京都	東京都立墨東病院
24	東京都	東京共済病院
25	東京都	日産厚生会玉川病院
26	東京都	関東中央病院
27	東京都	東京都立広尾病院
28	東京都	新渡戸記念中野総合病院
29	東京都	河北総合病院
30	東京都	浴風会病院
31	東京都	東京都立大塚病院
32	東京都	東京都保健医療公社豊島病院
33	東京都	練馬光が丘病院
34	東京都	多摩北部医療センター
35	東京都	市立青梅総合医療センター
36	東京都	武蔵野赤十字病院
37	東京都	東京都立多摩総合医療センター
38	東京都	榊原記念病院
39	東京都	公立昭和病院
40	東京都	国立病院機構災害医療センター
41	東京都	東京通信病院
42	神奈川県	横浜南共済病院
43	神奈川県	横須賀共済病院
44	神奈川県	平塚共済病院
45	神奈川県	AOI 国際病院

46	神奈川県	虎の門病院分院
47	神奈川県	川崎市立多摩病院
48	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院
49	神奈川県	新百合ヶ丘総合病院
50	神奈川県	横浜市立みなと赤十字病院
51	山梨県	山梨県立中央病院
52	長野県	北信総合病院
53	長野県	諏訪中央病院
54	長野県	佐久総合病院
55	長野県	佐久医療センター
56	静岡県	静岡市立清水病院
57	静岡県	国際医療福祉大学熱海病院
58	島根県	公立邑智病院
59	福岡県	飯塚病院

連携施設に関する情報は別添 1 を参照して下さい。

(資料4)

東京医科歯科大学内科専門研修特別連携施設

No.	都道府県	二次医療圏	施設名
1	埼玉県	南西部	田中医院
2	千葉県	東葛北部	新松戸診療所
3	千葉県	東葛北部	あおぞら診療所
4	東京都	区中央部	メモリークリニック
5	東京都	区中央部	文京根津クリニック
6	東京都	区中央部	ゆしまクリニック
7	東京都	区東部	賛育会病院
8	東京都	区東北部	セツルメント診療所
9	東京都	区中央部	リバーサイド読売ビル診療所
10	東京都	区中央部	管工業健康保険組合健康管理センター
11	神奈川県	横須賀・三浦	信愛クリニック

特別連携施設に関する情報は別添2を参照してください。

(資料5)

東京医科歯科大学内科専門研修プログラム管理委員会

東京医科歯科大学

宮崎 泰成	(プログラム統括責任者, 委員長, 呼吸器内科 (含: アレルギー領域))
岡本 隆一	(プログラム統括副責任者, 消化器内科)
笹野 哲郎	(プログラム統括副責任者, 循環器内科)
森 毅彦	(血液内科 (含: 腫瘍内科領域))
保田 晋助	(膠原病・リウマチ内科)
山田 哲也	(糖尿病・内分泌・代謝内科)
内田 信一	(腎臓内科)
横田 隆徳	(脳神経内科)
橋本 正良	(総合診療科 (含: 総合内科領域))
具 芳明	(感染症内科)
若林 健二	(集中治療部)
小林 正典	(東京医科歯科大学研修委員会委員長, 消化器内科)
西村 卓郎	(東京医科歯科大学研修委員会副委員長, 循環器内科)
白井 剛	(東京医科歯科大学研修委員会副委員長, 呼吸器内科)
岡田 英理子	(総合教育研修センター, 消化器内科)

連携施設: 各連携施設の担当医師 59 名

東京医科歯科大学内科専門研修プログラム研修委員会

東京医科歯科大学

小林 正典	(委員長, 消化器内科)
西村 卓郎	(副委員長, 循環器内科)
白井 剛	(副委員長, 呼吸器内科)
梅澤 佳央	(血液内科)
佐々木 広和	(膠原病・リウマチ内科)
村上 正憲	(糖尿病・内分泌・代謝内科)
須佐 紘一郎	(腎臓内科)
清水 寛路	(消化器内科)
松田 祐治	(循環器内科)
古澤 春彦	(呼吸器内科)
馬淵 卓	(総合診療科)
田頭 保彰	(感染症内科)
青山 慧	(がんゲノム診療科 (含: 腫瘍内科領域))
八木 洋輔	(脳神経内科)
三島 有華	(集中治療部)
岡田 英理子	(総合教育研修センター, 消化器内科)

# 専攻医研修マニュアル

## 目次

1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先	2
2. 専門研修の期間	2
3. 研修施設群の各施設名	2
4. プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名	2
5. 各施設での研修内容と期間	3
6. 主要な疾患の年間診療件数	3
7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安	4
8. 自己評価と指導医評価，ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期	5
9. プログラム修了の基準	6
10. プログラムにおける待遇	6
11. プログラムの特色	6
12. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否	7
13. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢	7
14. 研修施設群内で何らかの問題が発生したとき	7
（資料 1）東京医科歯科大学内科専門研修連携施設	8
（資料 2）東京医科歯科大学内科専門研修特別連携施設	10
（別添 1）東京医科歯科大学内科専門研修連携施設情報	
（別添 2）東京医科歯科大学内科専門研修特別連携施設情報	

文中に記載されている『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は，日本内科学会から示されている基準に準拠しました。

# 東京医科歯科大学内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

## 1. 研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務し、実地医家として地域医療に貢献します。
- 2) 内科系救急医療の専門医：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院で内科系の Subspecialty, 例えば消化器内科や循環器内科に所属し、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

## 2. 専門研修の期間

内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた東京医科歯科大学内科専門研修プログラム（以下、本研修プログラム）で 3 年間（以上）の研修で育成されます。研修プログラムには、研修修了時に求められる症例経験、知識、技能、態度それぞれにおいて到達目標が設定されています。内科専攻医は、それらを達成した後に専門研修プログラム管理委員会からの承認を経て、内科専門研修プログラムを修了することができます。

## 3. 研修施設群の各施設名

基幹施設：東京医科歯科大学病院

連携施設：59 施設（p.8 資料 1 参照）

特別連携施設：11 施設（p.10 資料 2 参照）

## 4. プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

### 1) 研修プログラム管理運営体制

本研修プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を東京医科歯科大学病院に設置し、その委員長、各内科、総合教育研修センターおよび連携施設から 1 名ずつ管理委員を選任します。

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

### 2) 指導医一覧

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて確認することができます。

## 5. 各施設での研修内容と期間

本研修プログラムでは専攻医が抱く将来の希望に合わせて以下の 3 つのコース，①内科領域別コース，②総合内科コース，③ICU・内科統合コース，があります。

将来の Subspecialty が決定している専攻医は内科領域別コースを選択します。Subspecialty が未決定，または総合内科医（Generalist）を目指す場合は総合内科コースを選択します。内科系集中治療医を目指す場合は ICU・内科統合コースを選択します。具体的な研修コースは項目 7（p.4）を参照してください。

基幹施設である東京医科歯科大学病院での研修と連携施設での研修をともに行うことを必須としており，基幹施設では 1 年以上，連携施設では 1 年以上で研修します。連携施設では内科全般の Common disease を経験することができ，さらに内科 Subspecialty 研修も高いレベルで経験することが可能であり，地域医療の実際について学ぶことができます。基幹病院では連携施設では経験しにくいより高度な研修や先進医療の実際について学ぶことができます。大学では，より深い学習が得られる各種講習会や研究会が開催されており，研修修了に必要な JMECC, CPC, 安全管理講習会や感染制御講習会が受講できます。特別連携施設は地域の診療所で研修を行います。本研修プログラムの基幹施設・連携施設はいずれも中～大規模病院であるため，内科一般の一次医療，健康診断などの予防医学，病診連携などを特別連携施設である診療所で経験します。専門研修 3 年間で大学病院，地域中核病院および診療所で研修することにより，一次から三次医療まで経験することができ，将来のキャリア形成を考える上でも有用であることが本研修プログラムの特徴です。

## 6. 主要な疾患の年間診療件数

日本内科学会「研修カリキュラム（項目表）」に掲載されている主要な疾患については，東京医科歯科大学病院（基幹病院）の DPC 病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数を調査し，ほぼ全ての疾患群が充足されることが解っています。ただし，研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり，初期研修時での症例をもれなく登録すること，外来（当直を含む）経験することで必要な症例経験を積むことができます。東京医科歯科大学病院の内科診療科別診療実績を以下の表に示します。

2023 年度	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/年)
血液内科	11,141	11,475
膠原病・リウマチ内科	8,316	24,727
糖尿病・内分泌・代謝内科	2,487	21,088
腎臓内科	5,921	14,222
総合診療科	3,032	3,588
消化器内科	7,716	40,848
循環器内科	11,945	27,533
呼吸器内科	12,765	29,124
脳神経内科	10,878	17,891
感染症内科	-	936

緩和ケア科・がんゲノム診療科・臨床腫瘍科	2,792	5,607
合計	76,993	197,039

## 7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

東京医科歯科大学内科専門研修プログラムでは、内科専攻医は大学病院と連携施設をともに経験して、内科専門研修で求められる疾患経験・技能・態度・資質を取得します。本研修プログラムでは研修コースを①内科領域別コースと②総合内科コース、③ICU・内科統合研修コースの3つのコースを用意しました。また内科領域別コースは、11領域に分かれていて、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器・アレルギー、血液、神経、膠原病、感染症、腫瘍内科の領域となっていて、内科専攻医は1つの領域を選択します。

### ① 内科領域別コース

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。専攻医1年目(PGY3)は基幹または連携施設で内科一般(Generality)研修を主としながら自らが希望する Subspecialty 領域の初期トレーニングを開始します。専攻医2年目(PGY4)は基幹または連携施設にて内科一般(Generality)研修を行うことを原則としますが、症例経験が45疾患群以上を満たせば、自らが希望する Subspecialty 領域の研修をします。専攻医3年目(PGY5)も基幹または連携施設における当該 Subspecialty 科において内科研修を継続し、Subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の担当者およびプログラム統括責任者が協議して決定します。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学をともに希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決定します。

内科領域別コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を主としながらSubspecialty研修の初期トレーニングを行う。PGY3でJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京医科歯科大学/連携施設で研修 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京医科歯科大学/連携施設で研修 必要な疾患群を経験し、Subspecialty研修を重点的に行う 70疾患群を経験し200症例以上を登録を目標とするが最低56疾患群、160症例以上を経験し登録 2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加 2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は内科一般研修を主として行い内科領域研修を開始する。PGY4で内科一般研修と内科領域研修を並行し45疾患群以上の経験を目指す。PGY5は内科領域研修を重点的に行う。											
その他	研修する施設については、大学の領域別内科と総合教育研修センターでの協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

### ② 総合内科コース

高度な総合内科(Generality)の専門医を目指す場合や、将来の Subspecialty が未定な場合に選択します。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専門研修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします。専攻医1年目(PGY3)は連携施設で内科一般(Generality)研修を行います。専攻医2年目、3年目(PGY4,PGY5)は総合内科責任者(総合診療科責任者が兼務)と専攻医が相談の上、基幹施設1年以上+連携施設2年以内で研修することにします。

総合内科コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を行う。PGY3でJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、160症例以上を経験し登録 2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加 2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は連携施設で内科一般研修（1-2ヶ月ローテなど）を行う。PGY4とPGY5は大学では総合診療科または連携施設で内科一般研修を続ける。											
その他	研修する施設については、総合内科責任者（総合診療科責任者が兼務）と総合教育研修センターでの協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

### ③ ICU・内科統合コース

内科専門医取得後に集中治療医を目指すコースで、希望する Subspecialty 領域もしくは Generality 研修を中心としながら、一定の期間重症管理を集中的に研修するコースです。専攻医1年次には大学または連携施設で1年間内科 Generality 研修及び、Subspecialty 領域の初期トレーニングを行います。そのうち一定期間（3ヶ月以上）、ICUにおける超急性期・急性期の集中治療研修を行います。専攻医2年次は大学または連携施設にて、内科 Generality 研修や Subspecialty 領域の研修を継続します。内科系急性期・救急疾患への適切な対応も学ぶ他、フォローアップ外来などで慢性期についても学びます。専攻医3年次は大学または連携施設にて、内科研修を継続しながら ICU での集中治療研修もを行います。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者、集中治療部責任者、希望する Subspecialty もしくは総合内科責任者が協議して決定します。

ICU・内科統合コース												
専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PGY3	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を主とし、ICUでの研修も行う。PGY3でJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約10編以上を登録											
PGY4	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修を行う。 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
PGY5	東京医科歯科大学/連携施設で研修。内科一般研修、ICUでの研修を行う。 70疾患群を経験し200症例以上の登録を目標とするが、最低56疾患群、160症例以上を経験し登録 2年次までに登録された病歴要約の改定											
学術活動	2回以上の学術集会へ参加 2件以上の筆頭者での学会発表あるいは論文発表											
その他の要件	JMECC、CPC、医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会への参加											
研修の概要	PGY3は大学で内科一般研修を行い、3か月程度ICU研修を行う。PGY4、5は大学の総合診療科または連携施設で内科一般研修を続けながら、ICU研修も行う。											
その他	研修する施設については、ICU責任者、各内科責任者、総合教育研修センターでの協議にて決定し、プログラム管理委員会が承認する。											

## 8. 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

### 1) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

### 2) 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に1回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。毎年、指導医とメディカ

ルスタッフによる複数回の 360 度評価を行い、態度の評価が行われます。

## 9. プログラム修了の基準

- 1) 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて、以下の修了要件を満たす必要があります。
  - ① 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とする。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録する。修了認定には、主担当医として通算で 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は 16 症例まで含むことができる）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録済みであること。
  - ② 病歴要約 29 症例分が日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読・形成的評価後に受理されていて、二次評価が完了していること。
  - ③ 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて多職種による 360 度評価と指導医による内科専攻医評価を参照し、医師としての資質が備わっていると承認されること。
  - ④ 技術・技能評価の到達度がプログラムの定める修了要件を満たしていること。
  - ⑤ JMECC 受講歴が 1 回あること。
  - ⑥ 医療安全・感染制御・医療倫理に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があること、プログラムの修了要件を満たしていること。
  - ⑦ 地域医療の経験について、プログラムの定める修了要件を満たしていること。
  - ⑧ 教育活動・学術活動についてプログラムの定める修了要件を満たし、所定回数の内科系学術集会に参加し、学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あること
  - ⑨ 研修歴についてプログラムの定める指定期間を満たしていること。
- 2) 上記修了要件を充足していると東京医科歯科大学内科専門研修プログラム管理委員会が確認し、専門研修 3 年目の 3 月に東京医科歯科大学内科専門研修プログラム管理委員会で協議の上、統括責任者が修了認定を行います。また、専攻医の事情等で研修を延長する場合は、上記修了要件を充足した時点で修了認定を行います。

## 10. プログラムにおける待遇

東京医科歯科大学においては「就業規則及び給与規則」に従い、連携施設および特別連携施設においては、その施設の「就業規則及び給与規則」に従います。

## 11. プログラムの特色

本研修プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 3 つのコース、①内科領域別コース、②総合内科コース、③ICU・内科統合コース、を準備していることが最大

の特徴です。内科領域別コースは 8 領域に分かれていますが、選択後も条件を満たせば他領域のコースへの移行も認められます。総合内科コースは、専門研修 3 年間で内科全般 Generality 研修を内科領域別コースより幅広くかつ深く研修していき、内科専門研修修了後には内科臓器領域 Subspecialty 研修へ移行することも可能です。

## 12. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における 13 の Subspecialty 領域を順次研修します。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことが可能です（内科領域別コース参照）。本研修プログラム修了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

## 13. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて無記名式逆評価を行う。逆評価は毎年 3 月に行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、東京医科歯科大学内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

## 14. 研修施設群内で何らかの問題が発生したとき

研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します。

## (資料1)

## 東京医科歯科大学内科専門研修連携施設

No.	所在地	病院名
1	茨城県	総合病院土浦協同病院
2	茨城県	JA とりで総合医療センター
3	茨城県	ひたちなか総合病院
4	茨城県	常陸大宮済生会病院
5	埼玉県	秀和総合病院
6	埼玉県	埼玉県総合リハビリテーションセンター
7	埼玉県	草加市立病院
8	埼玉県	さいたま赤十字病院
9	千葉県	総合病院国保旭中央病院
10	千葉県	東京ベイ・浦安市川医療センター
11	千葉県	柏市立柏病院
12	千葉県	安房地域医療センター
13	千葉県	亀田総合病院
14	東京都	三楽病院
15	東京都	九段坂病院
16	東京都	虎の門病院
17	東京都	心臓血管研究所付属病院
18	東京都	JCHO 東京山手メディカルセンター
19	東京都	東京都保健医療公社大久保病院
20	東京都	東京都立駒込病院
21	東京都	永寿総合病院
22	東京都	同愛記念病院
23	東京都	東京都立墨東病院
24	東京都	東京共済病院
25	東京都	日産厚生会玉川病院
26	東京都	関東中央病院
27	東京都	東京都立広尾病院
28	東京都	新渡戸記念中野総合病院
29	東京都	河北総合病院
30	東京都	浴風会病院
31	東京都	東京都立大塚病院
32	東京都	東京都保健医療公社豊島病院
33	東京都	練馬光が丘病院
34	東京都	多摩北部医療センター
35	東京都	市立青梅総合医療センター
36	東京都	武蔵野赤十字病院
37	東京都	東京都立多摩総合医療センター
38	東京都	榊原記念病院
39	東京都	公立昭和病院
40	東京都	国立病院機構災害医療センター
41	東京都	東京通信病院
42	神奈川県	横浜南共済病院
43	神奈川県	横須賀共済病院
44	神奈川県	平塚共済病院
45	神奈川県	AOI 国際病院
46	神奈川県	虎の門病院分院

47	神奈川県	川崎市立多摩病院
48	神奈川県	聖マリアンナ医科大学病院
49	神奈川県	新百合ヶ丘総合病院
50	神奈川県	横浜市立みなと赤十字病院
51	山梨県	山梨県立中央病院
52	長野県	北信総合病院
53	長野県	諏訪中央病院
54	長野県	佐久総合病院
55	長野県	佐久医療センター
56	静岡県	静岡市立清水病院
57	静岡県	国際医療福祉大学熱海病院
58	島根県	公立邑智病院
59	福岡県	飯塚病院

連携施設に関する情報は別添 1 を参照して下さい。

(資料2)

東京医科歯科大学内科専門研修特別連携施設

No.	都道府県	二次医療圏	施設名
1	埼玉県	南西部	田中医院
2	千葉県	東葛北部	新松戸診療所
3	千葉県	東葛北部	あおぞら診療所
4	東京都	区中央部	メモリークリニック
5	東京都	区中央部	文京根津クリニック
6	東京都	区中央部	ゆしまクリニック
7	東京都	区東部	賛育会病院
8	東京都	区東北部	セツルメント診療所
9	東京都	区中央部	リバーサイド読売ビル診療所
10	東京都	区中央部	管工業健康保険組合健康管理センター
11	神奈川県	横須賀・三浦	信愛クリニック

特別連携施設に関する情報は別添2を参照してください。

# 別添 1

## 東京医科歯科大学内科専門研修プログラム連携施設情報

### 目次

1.	総合病院土浦協同病院	3
2.	JA とりで総合医療センター	6
3.	ひたちなか総合病院	9
4.	常陸大宮済生会病院	12
5.	秀和総合病院	15
6.	埼玉県総合リハビリテーションセンター	18
7.	草加市立病院	21
8.	さいたま赤十字病院	24
9.	総合病院国保旭中央病院	27
10.	東京ベイ・浦安市川医療センター	30
11.	柏市立柏病院	33
12.	安房地域医療センター	36
13.	亀田総合病院	39
14.	三楽病院	42
15.	九段坂病院	45
16.	虎の門病院	48
17.	心臓血管研究所付属病院	51
18.	JCHO 東京山手メディカルセンター	54
19.	東京都保健医療公社大久保病院	57
20.	東京都立駒込病院	60
21.	永寿総合病院	63
22.	同愛記念病院	66
23.	東京都立墨東病院	69
24.	東京共済病院	72
25.	日産厚生会玉川病院	75
26.	関東中央病院	78
27.	東京都立広尾病院	81
28.	新渡戸記念中野総合病院	84
29.	河北総合病院	87
30.	浴風会病院	90
31.	東京都立大塚病院	93

32.	東京都保健医療公社豊島病院	96
33.	練馬光が丘病院	99
34.	多摩北部医療センター	102
35.	市立青梅総合医療センター	105
36.	武蔵野赤十字病院	108
37.	東京都立多摩総合医療センター	111
38.	榊原記念病院	114
39.	公立昭和病院	117
40.	国立病院機構災害医療センター	120
41.	東京通信病院	123
42.	横浜南共済病院	126
43.	横須賀共済病院	129
44.	平塚共済病院	132
45.	AOI 国際病院	135
46.	虎の門病院分院	138
47.	川崎市立多摩病院	141
48.	聖マリアンナ医科大学病院	144
49.	新百合ヶ丘総合病院	147
50.	横浜市立みなと赤十字病院	150
51.	山梨県立中央病院	153
52.	北信総合病院	156
53.	組合立諏訪中央病院	159
54.	佐久総合病院	162
55.	佐久医療センター	165
56.	静岡市立清水病院	168
57.	国際医療福祉大学熱海病院	171
58.	公立邑智病院	174
59.	飯塚病院	177

# 1. 総合病院 土浦協同病院

責任者名 草野 史彦

責任者診療科名 消化器内科

## 1. 連携施設の概要

### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8	(2024.4現在)
病床数 (床)	800	(2024.4現在)
内科系病床数 (床)	286	(2024.4現在)
外来患者数 (人)	439,292	(2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	185,441	(2023年実績)
入院患者数 (人)	195,808	(2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	99,441	(2023年実績)

### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	28	(2023.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	28	(2023.3現在)
総合内科専門医数 (人)	14	(2023.3現在)

### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	8	(2023年実績)
-----------	---	-----------

### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	9回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題



## 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

<p>評価 (4段階評価)</p> <p>◎研修できる</p> <p>○時に経験できる</p> <p>△ほとんど経験できない</p> <p>×まったく経験できない</p>
---

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・附属の保育園（ひまわり保育園）が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が32名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2023年度開催実績8回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完もする。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で学会発表を行っている。
- ・内科系学会の後援会等で学会発表を行っている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 草野 史彦

当院では十分な指導体制を整備し、先生方に満足していただける後期研修を受けていただくことにより、優秀な内科専門医への途を歩んでいただきたいと思います。

(1) 地域基幹病院として、日本有数の症例数を誇り、内科領域のみでなく、1～3次までの豊富な救急症例を経験可能です。地上型ヘリポートを運用しています。

(2) 多くの指導医研修終了者を含め、各専攻科の複数の専門医が直接専攻医を指導するシステムをとることで、専攻医の経験症例の情報が共有でき、内科領域全体の研修がチームとして経験可能です。

(3) 学術面でもトップレベルの業績を上げている専門医が多く在籍し、症例検討から学会活動まで、幅広く指導しバランスのとれた研修をめざします。

(4) 一人一人の専攻医に専属のメンターが付き、研修についてのみでなく、医師としての進路、悩みを含めた面倒見のよい研修を目指します。

(5) 大学病院とも密接に連携し、臨床、教育、研究の各領域に精通した指導医を有し、専門医取得後も大学院への進路あるいはサブスペシャリティ選択、海外留学へのアドバイスまで幅広く指導します。

(6) 地域枠、修学生に配慮したプログラムについても配慮可能で、県北の主要病院とも連携して、専攻医に適した研修が可能です。

(7) 女性医師が働きやすい環境に配慮しており、各専攻医の希望に配慮した研修が可能です。

(8) 新築移転から七年が経過し、ハード面では素晴らしい環境が整い運用されています。先生方の力で新たな土浦協同病院の歴史を刻んでください。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	16	3	3	7	2	2	2	4	3	1	0	1	0	0	0

7) 経験できる疾患群

研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設(内科系)

日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本臨床細胞学会施設認定、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本ベインクリニック学会指定研修施設、日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本呼吸器学会認定施設、日本病理学会病理専門医制度認定病院、日本産科婦人科学会卒業研修指導施設指定、日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本麻酔学会認定麻酔科認定病院、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設、日本脳神経外科学会指定訓練場所、日本内科学会認定医制度教育病院、日本腎臓学会研修施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本肝臓学会認定施設、日本手の外科学会認定手の外科研修施設、呼吸器外科専門医認定機構基幹施設認定、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設、日本小児循環器学会認定小児循環器専門医修練施設群認定、日本内分泌学会認定内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関、日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設、日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本糖尿病学会認定教育施設、日本乳癌学会関連施設認定証、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本小児神経学会小児神経専門医制度研修施設、日本放射線腫瘍学会認定協力施設、日本小児外科学会専門医制度認定教育関連施設、日本食道学会認定食道外科専門医認定施設、日本小児科学会小児科専門医研修支援施設、日本医療機能評価機構認定病院、卒後臨床研修評価機構認定病院、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本周産期・新生児医学会専門医制度 周産期新生児専門医暫定研修施設、日本周産期・新生児医学会専門医制度 周産期母体・胎児専門医基幹研修施設、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定規則 実地修練認定教育施設

## 2. JAとりで総合医療センター

責任者名 山本 貴信

責任者診療科名 循環器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8 (2024.3.31現在)
病床数 (床)	414 (2024.3.31現在)
内科系病床数 (床)	179 (2024.3.31現在)
外来患者数 (人)	290,945 (2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	145,893 (2023年度実績)
入院患者数 (人)	112,039 (2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	58,752 (2023年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	15 (2024.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	15 (2024.3現在)
総合内科専門医数 (人)	15 (2024.3現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	9 (2023年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

臨床研修指定病院である、研修医用の居室がある。医師室では個人で持ち込んだパソコンでも通信できるような体制をとっており、電子媒体での文献検索が出来るように病院で契約している。また紙媒体の文献検索もできるように図書室もある。安全衛生委員会が設置され、過剰時間外勤務者などへのメンタルヘルスマネジメント、指導を行っている。女性医師に対しては女性用当直室（シャワー完備）や保育所を設置して、安心して勤務できるように配慮している。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、血液内科、脳神経内科、内分泌代謝内科、膠原病内科の常勤医がおり、全科にサブスペシャリティー専門医と総合内科専門医が在籍している。その他に非常勤として心療内科、総合内科医が勤務し、筑波大学の感染症専門医も週1回勤務して院内症例のコンサルテーションを引き受け、夕方に勉強会も開催している。年間の剖検数は10件前後で、年6回前後のCPCを開催している。これまで医療安全、感染の職員勉強会は年2回ずつ開催しており、専攻生も参加を義務付ける。今後は複数のプログラムに参加している専攻生が当院で研修を行うことになり、それぞれのプログラムの基幹施設との連携や合同カンファレンス、地域参加型のカンファレンス等も積極的に開催して、多角的な眼をもった内科専門医を養成する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

内科8分野（内分泌と代謝を分けると9分野）で総合内科専門医、指導医が常勤して指導体制は整っているが、その他の分野の症例も多く、定められた症例数を当院だけで経験することは可能であるが、補完する形での関連施設における研修を予定しており、日本内科学会が要求する基準は十分にクリアできる。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

倫理委員会が設置されており、これまでも内科サブスペシャリティー科は、認可された臨床研究を精力的に行っており、今後も変わることはない。医師は年1回以上の学会発表が義務付けられており、日本内科学会関東地方会も毎回演題登録を行って発表している。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 山本 貴信

J A とりで総合医療センターは、茨城県取手・龍ヶ崎医療圏の基幹病院としての役割を果たすべく、東京医科歯科大学と連携をとりながら診療を行っている。内科系においては、すべてのサブスペシャリティ科で専門医を配置し、各診療科とも指導体制は整っている。また救急だけでなく、回復期、生活維持期の医療体制も充実しており、1施設で全病期を理解することが出来る稀有な病院であると考えている。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	0	3	1	4	1	5	1	2	3	3	0	2	0	0	0

7) 経験できる疾患群

専門医がない科においても症例は豊富にあり、非常勤医師等から専門的な教育を受けることができ、当院で日本内科学会が要求する症例は経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

症例の主治医、担当医となりながら、症例を受け持ち、検査、診断、治療を行いながら診療技術、技能を獲得することができると考えている。

9) 経験できる地域医療・診療連携

病連携、病診連携とも体制は整っており、さらに訪問看護ステーションも併設しているため、訪問診療も可能となっている。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会・認定医教育病院、日本循環器学会・認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション学会・認定研修関連施設、日本消化器病学会・専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会・認定指導施設、日本呼吸器学会・認定施設、日本腎臓学会・研修施設、日本高血圧学会・専門医認定施設、日本透析医学会・教育関連施設、日本神経学会・教育施設、日本認知症学会・教育施設、日本血液学会・認定血液研修施設、日本がん治療認定医機構・認定研修施設、日本脳卒中学会・認定研修教育病院、日本アレルギー学会・準教育施設、日本輸血・細胞治療学会I&A認定施設

### 3. ひたちなか総合病院

責任者名 山内 孝義

責任者診療科名 循環器内科

#### 1. 連携施設の概要

##### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	9 (2024.4現在)
病床数 (床)	302 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	150 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	147,469 (2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	64,359 (2023年実績)
入院患者数 (人)	6,632 (2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	3,334 (2023年実績)

##### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	13 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	10 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	13 (2024.4現在)

##### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	8 (2023年実績)
-----------	-------------

##### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 日立製作所所員として勤務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士が担当）があります。
- 日立グループ共通のハラスメント相談部門を整備しています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- 指導医は10名在籍しています（下記）。
- 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会を設置しています。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPCを定期的で開催（2023年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 地域参加型のカンファレンス（ひたちなか医師会臨床研究会（2023年度1回）実施）。
- その他、キャンサボード（週1回）、内科症例検討会（週3回）、Web教育（3種）を定期的  
に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2023年度開催実績1回：受講者6名・JMECCディレクター在籍）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 日本専門医機構による施設実地調査に教育・研修センターと内科専門研修管理委員会が対応します。
- 特別連携施設の専門研修では、電話や週1回の日立製作所ひたちなか総合病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- カリキュラムに示す内科領域13領域のうち9領域の専門医が少なくとも1名以上在籍しており、定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- 70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
- 専門研修に必要な剖検（2022年実績9体、2023年8体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- 日立製作所病院統括本部合同で倫理委員会を設置し、定期的で開催（2023年度実績6回）しています。
- 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023年度実績12回）しています。
- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2023年度実績11演題）をしています。



## 4. 常陸大宮済生会病院

責任者名 市毛 博之

責任者診療科名 内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	5 (2024.4現在)
病床数 (床)	160 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	55 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	56,545 (2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	23,801 (2023年実績)
入院患者数 (人)	2,689 (2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	1,299 (2023年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	3 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	3 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0 (2023年実績)
-----------	-------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	活動予定



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	◎	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・済生会医師としての労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する相談窓口があります。
- ・ハラスメントに適切に対処する相談窓口があります。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室などが整備されています。
- ・近隣に保育所があり利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は3名在籍しております。基幹施設のプログラム管理委員会と研修委員会と密接に連携し、管理と指導を仰ぎ、専攻医の研修に努めます。
- ・医療安全と感染対策講習会を定期的で開催（年2回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療倫理においては研修施設群で開催される際に専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスやCPC開催に際しては専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催（常陸大宮済生会病院症例検討会：年3回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、その場での発表の機会も提供します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器分野で専門研修が可能です。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会地方会などに年1題以上の学会発表を目標とします。
- ・専攻医が積極的に国内・国外の学会に参加・発表できるよう、学会参加費と交通費の補助が受けられる病院規定を定めております。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 市毛 博之

当院は茨城県北西部で唯一の公的二次救急病院です。若年者から高齢者まで、急性期医療から慢性期医療まで幅広く対応しています。地域の医療資源が少ないからこそ、地域に根差し、地域住民に信頼される病院づくりを目指しています。また規模が小さいからこそ、地域医療の実際に触れ、地域包括ケアシステムや多職種協働（IPW）を肌で感じる機会がたくさんあります。

茨城県や常陸大宮市および近隣市町村との協力関係が厚く、施設・設備も充実しています。地域医療、プライマリ・ケアの現場で多種多様な疾患を主体的にマネジメントする機会が豊富にあるため、どのような将来像にも役に立つ経験がたくさんできます。また診療科間や多職種間の垣根がとて低く、アットホームな環境で研修が行えます。ぜひ「地域」という魅力的な場所で、ともに学び、ともに成長しませんか。その歩みが地域や地域住民への貢献につながる喜びをダイナミックに感じられると思います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

一般的な内科疾患は豊富に経験できます。特に高齢者に多い、循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、感染症、悪性腫瘍、脳血管疾患、認知症、終末期医療は豊富に経験できます。マルチモビディティ（多疾患併存状態）をマネジメントする機会が多く、老年病医学的にも学びが多いと思います。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳に示された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に即して幅広く経験することができます。特に超音波検査や消化管内視鏡検査（上下部消化管・ERCP）は希望に応じて豊富に経験できます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療、高齢者医療、超高齢医療、病診・病病連携、地域包括ケア、ACP：アドバンス・ケア・プランニング

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定教育関連施設  
 日本消化器病学会関連施設  
 日本消化器内視鏡学会指導連携施設  
 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設  
 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設  
 日本肝臓学会特別連携施設

## 5. 秀和総合病院

責任者名 泉山 肇

責任者診療科名 内分泌・糖尿病内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数(科)	8 (2024.4現在)
病床数(床)	350 (2024.4現在)
内科系病床数(床)	150 (2024.4現在)
外来患者数(人)	121,154 (2023実績)
内科系外来患者数(人)	61,830 (2023実績)
入院患者数(人)	82,512 (2023実績)
内科系入院患者数(人)	49,583 (2023実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数(人) ※非常勤含む	29 (2024.4現在)
内科指導医数(人) ※常勤医のみ	18 (2024.4現在)
総合内科専門医数(人) ※常勤医のみ	13 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数(件)	6 (2023実績)
----------	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	年1回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	○	○	○	◎

評価(4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修指定病院である。研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・給与、福利厚生（健康保険、厚生年金、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の規則による。
- ・労働衛生および災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。
- ・専攻医が安心して勤務できるよう更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・ハラスメント委員会が整備されている。
- ・院内保育室（キッズルームSHUUWA）が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修委員会を設置して、院内で研修する専攻医の研修を管理している。
- ・定期的（毎週1回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深めることができる。
- ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を配慮している。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を配慮している。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を配慮している。
- ・専攻医にJMECC受講の機会を与え、そのための時間を配慮している。
- ・救急の内科外来と当直医としての内科領域救急診療、更に当直医としての病棟急変等の経験を積むことができる。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに定める内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、各年次の到達目標に応じた疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については当院で実施の他、連携施設においても補完を行う。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・倫理委員会が設置されている。
- ・経験症例について文献を検索して症例報告を行っている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を行っている。
- ・内科系学会の後援会等で学会発表を行っている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 泉山 肇

埼玉県東部の地域医療を担う基幹病院の一つとして、きわめて活動的に医療に取り組んでいます。今までに築きあげた実績から地域住民の方々から信頼され、急性期医療、がん医療、緩和医療健診センター業務まで幅広く展開し、より専門性が高く質の高い医療を提供できる急性期対応型病院として機能しています。最新医療機器や最新電子カルテシステムも備えています。病院は全職員が快適に仕事に取り組むことができる環境にあり、医師、看護師、コメディカルスタッフが一丸となって、実りあるチーム医療を習得し、展開しています。救急医療や地域医療にも貢献し、救急患者は原則断らず、指導医の下で研修医の救急患者対応教育も積極的に行っています。

6) 学会別専門医数内訳（常勤医のみ）

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	13	5	4	5	3	5	3	3	0	0	1	0	0	0	1

7) 経験できる疾患群

70疾患群の症例の中で、総合内科、腎臓、循環器、内分泌、代謝、呼吸器、消化器などの症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な臨床技術・治療を学ぶことができる。特にプライマリ・ケアの場面で頻りに遭遇する主訴にどのように対応し、検査・治療を進めるか実際の症例に基づき幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

老人保健施設、福祉介護施設、診療所を含む地域医療システムを理解し、地域医療を実践することができる。メディカルソーシャルワーカー、地域の福祉施設など日常の診療活動で連携している内容も研修することができる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会関連施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本大腸肛門病学会関連施設、日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定実地修練認定教育施設、日本栄養療法推進協議会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設、日本静脈経腸栄養学会・NST（栄養サポートチーム）稼働施設、「栄養管理・NST実施施設」栄養管理・NST実施施設、病態栄養専門医研修認定施設、日本リウマチ学会教育施設認定など

## 6. 埼玉県総合リハビリテーションセンター

責任者名 市川 忠  
責任者診療科名 脳神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	2 (2017.1現在)
病床数 (床)	120 (2017.1現在)
内科系病床数 (床)	50 (2017.1現在)
外来患者数 (人)	19,037 (2015実績)
内科系外来患者数 (人)	7,081 (2015実績)
入院患者数 (人)	26,161 (2015実績)
内科系入院患者数 (人)	10,311 (2015実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	5 (2017.1現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	5 (2017.1現在)
総合内科専門医数 (人)	2 (2017.1現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0 (2015実績)
-----------	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	活動予定

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価									◎				

評価 (4段階評価) ◎研修できる ○時に経験できる △ほとんど経験できない ×まったく経験できない
--

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従う。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部門として産業医が配置されている。
- ・ハラスメント防止対策委員会が設置されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。職員用の休憩室も整備されている。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・日本神経学会専門医5名、日本認知症学会専門医が4名いる。
- ・研修委員会を設置予定であり、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスの参画を予定しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスの定期的参画を予定しており、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能である。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域のうち神経領域で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
- ・当センターで剖検の実績はないため、連携施設において補完もする。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・当センター内単独で、あるいは東京医科歯科大学関連教室と連携しての臨床研究が可能である。
- ・臨床倫理委員会が設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での発表を計画している。
- ・国際学会を含む内科系学会で年間4題の学会発表を行っている。（2015年度実績）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 市川 忠

当センターでは、神経変性疾患の診断治療と在宅療養の支援について学習することができます。東京医科歯科大学などの急性期病院では経験できない回復期リハビリテーションもっており、神経疾患の診断、治療および療養や地域支援などを系統だって学ぶことができます。また地域（上尾市）の認知症診療の機関病院として、認知症の診断、治療や地域との連携を体験できます。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	2									5					

7) 経験できる疾患群

神経領域の9領域すべての経験ができる。病院の性質上、急性期の診療担当は困難であるが、回復期や慢性期での治療やリハビリの経験ができる。

8) 経験できる技術・技能

神経疾患の診断に必要な電気生理検査（神経伝導検査、筋電図検査）、神経生検及び筋生検を経験できる。また、脳血流検査を主体となって検査、分析ができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

認知症地域連携ネットワークの主体となっており、地域包括支援センター、開業医、他病院との連携が可能で、認知症患者の地域ケアについて経験可能である。

10) 学会認定施設（内科系）

日本神経学会認定教育施設、日本認知症学会認定教育施設、日本リハビリテーション医学会認定教育施設

## 7. 草加市立病院

責任者名 塚田 義一

責任者診療科名 呼吸器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8	(2024.4現在)
病床数 (床)	380	(2024.4現在)
内科系病床数 (床)	混合病床	(2024.4現在)
外来患者数 (人)	201,542	(2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	92,516	(2023年度実績)
入院患者数 (人)	93,646	(2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	51,174	(2023年度実績)



#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	14	(2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	14	(2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)		(2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	7	(2023年度実績)
-----------	---	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署が経営管理課にある。
- ・ハラスメント委員会が院内に設置されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・院内保育室が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が14名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2023年度開催実績2回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については当院で実施の他、連携施設において補完もする。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会地方会で年間3題の学会発表を行っている。（2022年度実績）
- ・内科系各専門領域で年間15題の学会発表を行っている。（2022年度実績）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 塚田 義一

当院は埼玉東部医療圏の中心的な急性期病院です。同医療圏は総人口115万人（2020年）の大都市型二次医療圏でありながら人口10万人に対する医師数が全国平均の2/3と医療過疎地域であるため、一人の医師が急性期から慢性期まで幅広い疾患群を数多く経験できます。多様な症例を熟練した指導医のもとで順次経験することによって、疾患や病態に関する標準的な知識や技能を修得し、リサーチマインドの素養をも身につけることが可能です。また、知識や技能に偏らず、患者の抱える多様な背景に応じ柔軟で全人的な医療を実践できる能力を持つ内科専門医を育成します。

6) 学会別専門医数内訳（2024年度）

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	12	4	4	8	4	2	3	3	1	0	0	1	0	0	1

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定内科専門医教育関連病院、日本血液学会認定血液研修施設、日本糖尿病学会教育関連施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本不整脈学会、日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設

## 8. さいたま赤十字病院

責任者名 甲嶋 洋平

責任者診療科名 肝胆膵内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	11 (令和6年4月現在)
病床数 (床)	638 (令和6年4月現在)
内科系病床数 (床)	224 (令和6年4月現在、混合病床含む)
外来患者数 (人)	351,900 (令和5年度実績)
内科系外来患者数 (人)	155,260 (令和5年度実績)
入院患者数 (人)	205,645 (令和5年度実績)
内科系入院患者数 (人)	87,841 (令和5年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	34 (令和6年4月現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	34 (令和6年4月現在)
総合内科専門医数 (人)	33 (令和6年4月現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	11 (令和5年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	10回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・さいたま赤十字病院常勤嘱託医として勤務環境が補償されている。
- ・安全衛生委員会にてメンタルストレス、ハラスメントに適切に対している。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は34名在籍している。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会にて連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
- ・内科専門研修委員会にて専攻医の研修を管理する。
- ・医療倫理、医療安全、感染症対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的で開催し、専攻医に参加を義務づけ、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型カンファランスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与える。
- ・全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与える。
- ・日本専門医機構による施設実地調査にはさいたま赤十字病院臨床研修センターが対応する。
- ・指導医の在籍していない施設の指導体制・・・テレビ電話等

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できる。
- ・専門研修に必要な剖検（令和5年度11体、令和4年度6体）を行っている。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要なコンピューターソフト等を図書室に準備している。
- ・臨床倫理委員会（年12回程度）を設置し定期的で開催している。
- ・治験事務局を設置し定期的に治験審査委員会（年10回程度）を開催している。
- ・日本内科学会講演会あるいは地方会に年3演題以上を発表している。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 甲嶋 洋平

さいたま赤十字病院は埼玉県さいたま市地区医療圏にある中心的な急性期病院です。背景人口が大きいため症例は豊富であり、あらゆる種類の急・慢性疾患、あらゆる背景を有する患者さんを経験することが可能です。初期臨床研修での経験をさらに深め、主治医として主体的に医療に参加しながら医師としての資質をさらに深めていただきたいと思います。埼玉県小川赤十字病院、群馬県原町赤十字病院等とも連携し郊外型地域医療を経験し、高齢化の進む日本の都市部でも地域でも活躍できる視野の広い内科専門医の養成をめざすことが本院のプログラムの特徴です。先進的な医療は同じ医療圏の自治医大さいたま医療センター、さいたま市立病院等との連携で幅広く厚く経験でき、subspeciality研修へ準備とすることも可能となっています。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	33	5	4	12	0	2	2	7	2	2	2	2	1	0	0

7) 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することが出来ます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。特に近接医療圏、他県医療圏の連携施設にて郊外、過疎地域での地域医療を経験することも本プログラムの特徴です。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会基幹研修施設、日本循環器病学会研修施設、日本呼吸器病学会認定施設、日本血液学会研修施設、日本腎臓学会基幹研修施設、日本神経学会教育施設、日本リウマチ学会研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本大腸肛門病学会基幹研修施設、日本透析医学会認定施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本糖尿病学会認定教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設

## 9. 地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院

責任者名 塩尻 俊明

責任者診療科名 内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	12	(2024.4現在)
病床数 (床)	989	(2024.4現在)
内科系病床数 (床)	310	(2024.4現在)
外来患者数 (人)	592,226	(2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	171,516	(2023年度実績)
入院患者数 (人)	268,718	(2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	124,527	(2023年度実績)



#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む		
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	28	(2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	25	(2023年度実績)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	51	(2023年度実績)
-----------	----	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	16回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 法人職員として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。
- ハラスメント委員会が院内に設置されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、女性医師専用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- 指導医が28名在籍しています。
- 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度実績 医療倫理1回、医療安全16回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPCを定期的に開催（2023年度実績16回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- 70疾患群のうち全疾患群（少なくとも60以上の疾患群）について研修できます。
- 専門研修に必要な剖検（2023年度実績51体、2022年度実績57体、2021年度実績58体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023年度実績6回）しています。
- 治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2023年度実績9回）しています。
- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2023年度実績12演題）をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 塩尻 俊明

・旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。  
 ・高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約45,000人の患者が来院し、24時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数310床で年間約8000人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2023年度は51体に及び、毎月CPCが開催されています。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	25	8	2	5	2	3	2	2	1	6	2	3	1	0	7

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設  
 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設  
 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設  
 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設  
 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設  
 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設  
 日本神経学会認定准教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設  
 日本がん治療認定医機構認定研修施設  
 など

# 10. 東京ベイ・浦安市川医療センター

責任者名 江原 淳

責任者診療科名 総合内科

## 1. 連携施設の概要

### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8 (2022.3現在)
病床数 (床)	344 (2022.3現在)
内科系病床数 (床)	130 (2022.3現在)
外来患者数 (人)	172,707 (2020年度実績)
内科系外来患者数 (人)	73,734 (2020年度実績)
入院患者数 (人)	104,559 (2020年度実績)
内科系入院患者数 (人)	51,357 (2020年度実績)

### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	30 (2022.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	30 (2022.3現在)
総合内科専門医数 (人)	16 (2022.3現在)

### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	10 (2021年度実績)
-----------	---------------

### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上



## 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・東京ベイ・浦安市川医療センター専攻医として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（委員会および診療支援課）があります。
- ・ハラスメント委員会が東京ベイ・浦安市川医療センターに整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・職員用保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は30名在籍しています。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修管理委員会と医師・研修管理室を設置しています。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2021年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催（2021年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（地域医療講演会、ミニ循環器学会、救急プレホスピタル勉強会、消化器病カンファレンス等；）を定期的で開催し、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2020年度1回:受講者6名)を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に医師・研修管理室が対応します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。
- ・専門研修に必要な剖検（2019年度実績14体、2020年度5体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
- ・倫理審査委員会を設置し、定期的で開催（2021年度実績12回、審査95件）しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計5演題以上の学会発表（2021年実績16演題）をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 江原 淳

東京ベイ・浦安市川医療センターは千葉県東葛南部地区の中心的な急性期病院です。年間救急搬送受け入れ台数は千葉県内でもトップレベルであり、豊富な急性期疾患かつ市中病院ならではのコンディーンズを幅広く経験できます。患者層も若年～超高齢者まで幅広く様々です。当院では総合内科チームが全ての内科系入院症例を担当し、症例ごとに各専門科がコンサルタントとしてチームに加わる体制をとっています。初期・後期・若手指導医の屋根瓦式の教育体制に加え、さらに各チームにそれぞれ総合内科指導医と各専門科指導医が並列で加わる2人指導医体制により、幅広い視野と深い考察という非常にバランスの取れた指導を受けることができます。

またこの体制により総合内科ローテートでも各科サブスペシャリティ研修と比較して遜色のない、十分な症例経験が可能です。また専門科研修では更にサブスペシャリティに特化した研修(手技やコンサルト業務等)を行います。

設立当初から幅広く質の高い内科研修を行うことを目的に構築された、自信を持ってお勧めできる研修体制です。皆様のご応募をお待ちしております。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	総合内科	消化器	肝臓	循環器	内分泌	腎臓	糖尿病	呼吸器	血液	神経	アレルギー	リウマチ	感染症	老年病	救急
人数	16	2	0	8	1	4	1	1	0	0	1	1	1	0	10
						内科以外					内科以外		内科以外		内科以外

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・疾病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設(内科系)

日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設認定  
 日本リウマチ学会教育施設  
 日本感染症学会研修施設  
 日本緩和医療学会研修施設  
 日本集中治療医学会研修施設  
 日本循環器学会循環器専門医研修施設  
 日本消化器内視鏡学会指導施設  
 日本消化器病学会認定施設  
 日本消化管学会胃腸科指導施設  
 日本腎臓学会研修施設  
 日本超音波医学会研修施設  
 日本透視医学会教育関連施設  
 日本内科学会教育病院  
 日本心血管インターベンション治療学会研修施設  
 日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設  
 日本救急医学会救急科専門医指定施設  
 日本病院総合診療医学会認定施設

# 1 1. 柏市立柏病院

責任者名 小林 和郎

責任者診療科名 循環器内科

## 1. 連携施設の概要

### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	7 (2024.4現在)
病床数 (床)	200 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	120 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	151,367 (2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	81,391 (2023年実績)
入院患者数 (人)	42,632 (2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	26,730 (2023年実績)

### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	8 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	6 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	7 (2024.4現在)

### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0 (2023年度実績)
-----------	--------------

### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	x回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上



## 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	△	△	◎	◎

<p>評価 (4段階評価)</p> <p>◎研修できる</p> <p>○時に経験できる</p> <p>△ほとんど経験できない</p> <p>×まったく経験できない</p>
---

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。  
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。  
・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。  
給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。  
・メンタルストレスに適切に対処するため、相談窓口及び心の健康づくり計画推進体制を整備している。  
・衛生委員会においてハラスメント防止対策に取り組み、苦情等の相談窓口を設置している。  
・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、個別の当直室が整備されている。  
・院内の保育施設（ひまわり保育室）が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が7名在籍している。  
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。  
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・CPC を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
開催が困難な場合には、期間施設で行うCPC、もしくは日本内科学会が企画するCPCの受講を専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す内科領域13分野のうちいずれかの分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 小林 和郎

柏市立柏病院は、東京医科歯科大学を基幹とする初期研修プログラムと連携し、これまで多くの研修医を受け入れてきました。医療の最先端を担う内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医の育成に努めています。  
新制度のもとでは、関連病院と連携しさらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験とすぐれた専門性を有する内科医を育成するプログラムに寄与して参ります。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	6	4	3	4	1	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本糖尿病学会認定教育関連施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度関連施設、日本内科学会認定医制度教育関連施設、日本肝臓学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設

## 1 2. 安房地域医療センター

責任者名 濱井 彩乃

責任者診療科名 総合診療科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	11 (2024.4現在)
病床数 (床)	149 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	100 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	17,353 (2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	4,313 (2023年度実績)
入院患者数 (人)	2,819 (2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	1,294 (2023年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	10 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	7 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	3 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0 (2023年実績)
-----------	-------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間1-2題



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	△	◎	○	○	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・協力型臨床研修病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従う。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部門が設置されている。
- ・ハラスメント防止対策委員会が設置されている。
- ・学内の保育園（ひまわり保育園）が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が7名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2019年度開催実績10回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMCC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察している。
- ・70疾患群のうち、68疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については連携施設において補完する。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床倫理委員会が設置されている。
- ・基幹施設である亀田総合病院において臨床試験管理センターが設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で1題の学会発表を行っている。（2022年度実績）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 濱井 彩乃

救急医療も担う地域中規模病院です。専門科は総合病院と比べ少ないですが、総合診療科があり幅広い疾患の対応を行っています。地域の病院や診療所との連携や、亀田総合病院との連携を行い、地域医療の中で重要な役割を果たしています。在宅支援病院として訪問診療も行っており、退院支援にも力を入れています。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人 数	4	2	1	2	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	1

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域、68疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技能・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけではなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育関連施設、循環器専門医研修関連施設、病院総合診療医学会認定施設  
日本透析医学専門医制度教育関連施設、日本神経学会専門医制度における准教育施設と認定

# 1 3. 亀田総合病院

責任者名 中路 聡

責任者診療科名 消化器内科 部長

## 1. 連携施設の概要

### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	13	(2024.4現在)
病床数 (床)	917	(2024.4現在)
内科系病床数 (床)	521	(2024.4現在)
外来患者数 (人)	72,460	(2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	32,479	(2023年度実績)
入院患者数 (人)	21,556	(2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	10,142	(2023年度実績)

### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	41	(2023.1現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	39	(2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	42	(2024.4現在)

### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	34
-----------	----

### 4) 講習会等の開催

(2023年度実績)

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	10回/年
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



## 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
総合内科	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
消化器	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
循環器	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
内分泌	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
代謝	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
腎臓	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
呼吸器	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
血液	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
神経	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
アレルギー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
膠原病	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
感染症	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
救急	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境
- ・メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター
- ・悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤
- ・ハラスメント委員会の整備
- ・女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備
- ・敷地に隣接した保育所および病児保育施設
- ・病院併設の体育館・トレーニングジム
- ・その他、クラブ活動、サーフィン大会など

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。
- ・連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や相談をすることができるようウェブ会議ができる環境

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を70疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告を記載します。

これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ①内科系学術集会や企画に年2回以上参加する(必須)。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会CPCおよび内科系subspecialty学会の学術講演会・講習会を推奨する。
  - ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
  - ③クリニカルクエスションを見出し臨床研究を行う。
  - ④内科学会に通じる基礎研究を行う。
- 以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として2件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 中路 聡

亀田総合病院では、高いレベルで幅広く総合的な内科診療能力を修得するための研修プログラムを準備しています。これから内科専門医研修を開始するみなさんは、一人ひとりバックグラウンドが違います。また、将来のビジョンも異なります。わたしたちには研修病院として長年の実績があります。みなさんのニーズやスタイルに合わせ、かつ効率よく最短でプログラムを終了するための研修を提供いたします。「自由と責任」、「権利と義務」のもと、形式的ではないアウトカムを重視した内科医として研修を行ってみませんか？内科専門医研修を開始するみなさん、ぜひ亀田総合病院と一緒に働きましょう！

6) 学会別専門医数内訳 2022年度時点

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	23	3	0	10	3	4	3	7	2	6	0	3	5	1	9

7) 経験できる疾患群

全70疾患群、200症例以上を経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますので、内科専門医に求められる知識・技能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医)年限ごとに設定している。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します

9) 経験できる地域医療・診療連携

技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度における教育病院、日本病院総合診療医学会 認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本透析医学会認定施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本急性血液浄化学会認定指定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定、日本消化器がん検診学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 など

## 1 4 . 三楽病院

責任者名 中野 美代子

責任者診療科名 呼吸器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	5	(2023.3.現在)
病床数 (床)	199	(2023.3.現在)
内科系病床数 (床)	80	(2023.3.現在)
外来患者数 (人)	138,054	(2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	58,520	(2023年実績)
入院患者数 (人)	40,056	(2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	22,560	(2023年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	5	(2023現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	5	(2023現在)
総合内科専門医数 (人)	5	(2023現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	1	(2023年実績)
-----------	---	-----------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	活動予定



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	○	◎	◎	△	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・図書室とインターネット環境があります。
- ・三楽病院レジデントとして労務環境が保障されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。
- ・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。
- ・民間の保育所が病院近傍にあります。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が9名在籍しています。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携をはかります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理 0回 医療安全 2回 感染対策2回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的開催（2015年度実績2回）し専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器科・総合内科・呼吸器科・で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、他分野でも、専門研修が可能な症例数のうちの多くの割合の症例数を診療しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床倫理委員会が設置されています。
- ・臨床試験管理委員会が設置されています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で、定期的な学会発表を目標としています。
- ・内科系学会で講演会等で年間4題の学会発表を行っています。（2015年度実績）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 中野 美代子

三楽病院は神田駿河台の地で設立83年の伝統を有する病院です。千代田区的一般病院として診療を行う一方、近隣の大学病院や地域医療機関とも密な連携を常に保ちながら、地域医療の担い手として診療の充実をはかっています。研修では主に日常遭遇することが多い一般的な内科疾患を経験しますが、消化器、循環器、糖尿病・代謝科の各科では専門的な研修を受けることも可能です。病院内各科との連携もスムーズであり、効率の良い診療が行えます。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	5	4	1	3		1	3	1							

7) 経験できる疾患群

研修手帳にある13領域70疾患群のうち、主に一般病院で遭遇することが多い疾患を幅広く経験できます

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験できます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期、慢性期を問わず、地域に根ざした医療・病診連携、また終末期医療等についても経験ができます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定医制度施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本血液学会認定医に関わる研修施設、日本病態栄養学会、栄養管理・NST実施施設

# 15. 九段坂病院

責任者名 石渡 庸夫

責任者診療科名 内科

## 1. 連携施設の概要

### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	4 (2024.4現在)
病床数 (床)	257 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	44 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	90,888 (2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	27,540 (2023年実績)
入院患者数 (人)	59,201 (2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	7,478 (2023年実績)

### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	6 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	4 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	8 (2024.4現在)

### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	1 (2023年実績)
-----------	-------------

### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間1-2題



## 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価	○	◎	○	○	◎	△	◎	△	◎	○	△	○	○

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本学の就業規則等に従う。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部門が設置されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が6名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2023年度開催実績1回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能である。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、全ての疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完もする。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・東京医科歯科大学大学院では内科系診療科に関連する講座が開設され、附属機関に難治疾患研究所も設置されていて臨床研究が可能である。
- ・臨床倫理委員会が設置されている。
- ・臨床試験管理センターが設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表を行っている。
- ・内科系学会の後援会等で学会発表を行っている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 石渡 庸夫

当院は、都心にありながら皇居のお堀に面しているため緑が多く、患者の療養環境にも非常に良い立地となっています。医師としての人格を涵養し、医学・医療の果たすべき社会的役割を意識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけるものとする。また、中規模病院ながら、都心の地域医療をあわせて担っていることが特徴である。内科の常勤医は10名（指導医6名）で、消化器・呼吸器・代謝内分泌・脳神経のほか内科全般にわたり研修を行える環境にあります。中規模病院なので診療科間のコミュニケーションは良く、他科コンサルなどのやり取りは、非常にスムーズに行えます。医師のみならず、パラメディカルとの連携も密に図っており、非常に働きやすい環境となっていると思います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	8	2	1	1	1	0	2	2	0	3	1	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本認知症学会認定研修施設

## 16. 虎の門病院

責任者名 森 保道

責任者診療科名 内分泌代謝科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	10	(令和6年度)
病床数 (床)	819	(令和6年度)
内科系病床数 (床)	479	(令和6年度)
外来患者数 (人)	2,505	(令和5年度・1日平均)
内科系外来患者数 (人)	1,351	(令和5年度・1日平均)
入院患者数 (人)	628	(令和5年度・1日平均)
内科系入院患者数 (人)	376	(令和5年度・1日平均)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	57	(令和6年度)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	57	(令和6年度)
総合内科専門医数 (人)	51	(令和6年度)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	15	(令和5年度)
-----------	----	---------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	12回/年
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	×	×	×	×	×	×	◎	×	×	×	×	×	×

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修制度における基幹型臨床研修病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・虎の門病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署があります。
- ・院内に保育施設があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・研修委員会を設置して、施設内の専攻医の専門研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的に開催します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・内科系学会において内科専攻医が筆頭演者の発表を年間で20件ほど行っています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 森 保道

呼吸器センター内科の特徴は、全体入院数に対して間質性肺疾患などの非悪性腫瘍の割合が他の施設よりも高いことです。当科に在籍する呼吸器学会指導医はその subspeciality が肺がん、間質性肺疾患/HRCT、慢性閉塞性肺疾患/喘息/呼吸生理、肺感染症と多岐に渡っていることも特徴です。EBUSやクライオ生検といった専門性の高い内視鏡技術も実施可能であり、年間総計280件程度の実績があります。診療・診断・治療において各専門領域バランスよく、かつ日本・世界トップレベルを目指して臨床を展開しており、チームの一員として前期研修医、内科専攻医の先生方には積極的に関わっていただいています。また、症例報告を各学会で発表していただき、志のある方には英文で論文を作成していただいています。年1～2人の方が英文paperを発表されています。また、日本呼吸器学会などで統計解析を用いたoriginal studyを発表する方もいらっしゃいますし、志がある方には欧米の国際学会で発表するチャンスもあります。研修は内科専門医研修とともに呼吸器内科専門医の連動研修が可能です。研修制度上の制約がいくつかありますが、呼吸器内科関連領域であるリウマチ膠原病科、感染症科、循環器内科などにローテーションしていただくこともできますし、国立がん研究センターなどで研修することもできます。虎の門病院呼吸器センター内科のHPをご覧くださいますと、参考になるかもしれません。皆様と一緒に働くことを楽しみにしています。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	51	22	9	9	5	5	4	9	9	5	1	3	5	3	4

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、定められた70疾患群を幅広く経験できます。

8) 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

虎の門病院分院（神奈川県）のみならず、関東近辺・東北・九州の病院と連携しており、各地域における地域医療や診療連携を経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

虎の門病院内科専門研修プログラム基幹施設、日本血液学会研修認定施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本肝臓学会専門医制度認定施設、日本神経学会認定教育施設、日本循環器学会専門医制度研修施設、日本腎臓学会認定教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本リウマチ学会認定教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本老年医学会老年科専門研修施設、日本感染症学会認定研修施設、日本腫瘍学会認定研修施設、ほか

# 17. 心臓血管研究所附属病院

責任者名 上嶋 徳久

責任者診療科名 循環器内科

## 1. 連携施設の概要

### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	1 (2024.4現在)
病床数 (床)	74 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	74 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	53,870 (2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	53,870 (2023年度実績)
入院患者数 (人)	16,523 (2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	16,523 (2023年度実績)

### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	5 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	4 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	8 (2024.4現在)

### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	1 (2023年度実績)
-----------	--------------

### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催予定
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題



## 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合内科	2 消化器	3 循環器	4 内分泌	5 代謝	6 腎臓	7 呼吸器	8 血液	9 神経	10 アレルギー	11 膠原病	12 感染症	13 救急
評価			◎										○

<p>評価 (4段階評価)</p> <p>◎研修できる</p> <p>○時に経験できる</p> <p>△ほとんど経験できない</p> <p>×まったく経験できない</p>
---

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本内科学会認定医教育関連特殊施設、日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設など
- ・施設内インターネット環境あり
- ・コンプライアンス委員会、スピークアップ窓口等設置
- ・女性専用の更衣室、シャワー室、仮眠室あり

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医4名在籍
- ・専門医研修管理委員会を毎月1回開催
- ・コンプライアンス、医療安全、感染対策に関する研修を定期的に開催
- ・カンファレンス、CPCの受講推奨

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち「循環器」の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本循環器学会総会に計30題採択（JCS2024）
- ・臨床試験管理室を設置するとともに、倫理委員会、治験審査委員会、利益相反管理委員会を毎月開催

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 及川 裕二

当院は、循環器専門施設です。循環器全般、また希望分野についてはより専門的な研修を受けることが可能です。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人 数	8			11											

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目）の「循環器」に記載のある疾患群

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳の「循環器」に記載のある各項目

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、心不全など精査加療を目的とした病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本循環器学会循環器専門医研修施設  
 日本内科学会認定医教育関連特殊施設  
 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設  
 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設  
 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

## 18. JCHO東京山手メディカルセンター

責任者名 笠井 昭吾

責任者診療科名 総合診療科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	7 (2021.3現在)
病床数 (床)	418 (2017.1現在)
内科系病床数 (床)	154 (2021.3現在)
外来患者数 (人)	271,770 (2019年実績)
内科系外来患者数 (人)	133,103 (2019年実績)
入院患者数 (人)	9,202 (2019年実績)
内科系入院患者数 (人)	3,629 (2019年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	17 (2021.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	17 (2021.3現在)
総合内科専門医数 (人)	16 (2021.3現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	10 (2019年実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	△	○	△	○	○

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。  
•研修に必要な図書室とインターネット環境があります。  
•当院任期付職員（レジデント）として勤務環境が保障されています。  
•メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。  
•ハラスメント委員会が整備されています。  
•女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。  
•敷地内に院内保育所はないが、専攻医が利用を希望した場合は、保育施設との提携も含め、専攻医が仕事と育児の両立をできるよう病院としてサポートします。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

•指導医が17名在籍しています。  
•内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。  
•医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2019年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。  
•研修施設群合同カンファレンス（2021年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。  
•CPCを定期的開催（2019年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。  
•地域参加型のカンファレンス：医療連携講演会（2019年度実績1回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、および救急の9分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績 5演題）をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 笠井 昭吾

当院内科は総勢約30名の各臓器別専門領域医師で構成され、患者数3000名以上と国内屈指の診療実績を誇る炎症性腸疾患センターをはじめとして、各専門領域で多くの専門医を有し、それぞれの領域で高いレベルの医療を提供しています。そして、高い専門性を有しつつ、その中で「総合内科」として1つの科にまとまっておらず、専門領域間の「垣根が低い」のではなく「垣根がない」チームワーク・総合力を持っています。スペシャリストが集まり、チームとして行う総合診療は、他の病院にはない、当院総合内科の大きな特徴です。総合内科として初診外来、救急診療、地域連携、研修医教育を行うとともに、地域医療・介護機関と連携し地域包括ケアの実践と、総合医マインドを持った研修医の育成に努めています。東京の中心、新宿で60年以上の長い歴史で培ってきた地域医療機関との連携を生かした、「地域密着型」の研修を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	16	6	1	7	0	2	1	3	2	0	2	0	2	0	2

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある11領域、59疾患群（神経・膠原病以外）の症例を経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。都市部ならではの「地域密着型の研修」を行いません。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本アレルギー学会認定準教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会認定研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本アライカア連合学会認定施設、日本病院総合診療医学会認定施設、エイズ治療拠点病院、東京都災害拠点病院 など

## 1 9. 東京都保健医療公社 大久保病院

責任者名 原 由紀子

責任者診療科名 脳神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	6 (2021.4現在)
病床数 (床)	304 (2021.4現在)
内科系病床数 (床)	140 (2021.4現在)
外来患者数 (人)	91,231 (2020年度実績)
内科系外来患者数 (人)	45,232 (2020年度実績)
入院患者数 (人)	4,747 (2020年度実績)
内科系入院患者数 (人)	2,376 (2020年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	9 (2020.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	4 (2020.4現在)
総合内科専門医数 (人)	9 (2020.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	9 (2020年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	△	△	△	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・東京都保健医療公社非常勤職員として勤務環境が保障されている。
- ・メンタルヘルスに適切に対処する研修がある。
- ・ハラスメント研修を実施している。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が14名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2015年度実績 医療倫理2回、医療安全14回、感染対策5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的で開催(2015年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催(2015年度実績 内科、整形外科、外科、婦人科、コメディカル、看護部等)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、膠原病、血液を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表(2015年度実績4演題)を予定している。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 原 由紀子

大久保病院は東京都西部医療圏の中心的な急性期病院であり、東京医科歯科大学内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消化 器	3 肝臓	4 循環 器	5 内分 泌	6 腎臓	7 糖尿 病	8 呼吸 器	9 血液	10 神経	11 アレ ルギ ー	12 リウ マチ	13 感染 症	14 老年 病	15 救急
人数	12	2	1	3	2	7	3	1	0	2	1	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、腎移植や超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院／日本循環器学会認定循環器専門医研修施設／日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設／日本消化器病学会専門医制度認定施設／日本肝臓病学会認定施設／日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設／日本糖尿病学会認定教育施設／日本呼吸器学会認定関連施設／日本透視医学会専門医制度認定施設／日本腎臓学会研修施設／日本神経学会准教育施設／日本臨床腫瘍学会認定研修施設／日本がん治療認定医機構認定研修施設ほか

## 20. 東京都立駒込病院

責任者名 三浦 義治

責任者診療科名 脳神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	12 (2022.3現在)
病床数 (床)	815 (2022.3現在)
内科系病床数 (床)	385 (2022.3現在)
外来患者数 (人)	14,862 (2020年実績)
内科系外来患者数 (人)	4,283 (2020年実績)
入院患者数 (人)	13,863 (2020年実績)
内科系入院患者数 (人)	5,626 (2020年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	39 (2022.1現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	35 (2022.1現在)
総合内科専門医数 (人)	25 (2022.1現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	18 (2021年実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	10回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	△

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・東京都非常勤医師として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課)がある。
- ・ハラスメント相談窓口が庶務課に整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が30名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2014年度実績：医療倫理1回、医療安全研修会9回、感染対策講習会3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンス(2022年度予定)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的に開催(2021年度実績：10回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンス(2021年度実績：地区医師会・駒込病院研修会10回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症の9分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2021年度実績：関東地方会7演題,総会2演題)を予定している。院内に臨床研究支援室も設置されていて臨床研究が可能である。臨床倫理委員会および倫理委員会が設置されている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 瀬戸口 京吾

東京都立駒込病院は総合基盤を備えたがんと感染症を重視した病院であるとともに、東京都区中央部の2次救急病院でもあります。都立駒込病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	25	13	3	2	1	4	3	4	9	3	1	1	3	0	1

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定内科専門医教育病院、日本リウマチ学会教育施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本アレルギー学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設、日本呼吸器学会認定医制度認定施設、日本腎臓学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本神経学会認定医制度教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本感染症学会モデル研修施設、日本プライマリケア関連学会認定医研修施設、日本腎臓学会専門医制度研修施設、日本胆道学会指導施設

## 2 1. 永寿総合病院

責任者名 吉田 英雄

責任者診療科名 消化器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2024.4月現在）
病床数（床）	400	（2024.4月現在）
内科系病床数（床）	217	（2024.4月現在）
外来患者数（人）	183,337	（2022年度実績）
内科系外来患者数（人）	81,494	（2022年度実績）
入院患者数（人）	6,981	（2022年度実績）
内科系入院患者数（人）	3,662	（2022年度実績）

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	-	
内科指導医数（人）※常勤医のみ	20	（2024.4月現在）
総合内科専門医数（人）	11	（2024.4月現在）

#### 3) 剖検数

内科剖検数（件）	5	（2023年実績）
----------	---	-----------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修指定病院である。臨床研修医が14－16名在籍している。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。
- ・メンタルストレスに適切に対処するために、産業医、精神科医を中心に、安全衛生委員会、研修委員会の支援、協力のもとに十分な産業衛生活動、研修管理の徹底を行っている。
- ・ハラスメント防止対策委員会が設置され、苦情相談員が置かれている。院外委員もおいている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・病院の至近距離にある協力保育施設が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・病院の総医師数は約110名であり、内科を含めた病院内指導医は約70名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に各複数回開催している。専攻医には受講を義務付けており、そのための時間的余裕も与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に企画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的に開催し（年5回以上）、専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設として、総合診療に特化した台東区立台東病院と、北海道知床半島の僻地医療を担う斜里町国民健康保険病院における専門研修の場を提供している。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については当院での実施で十分経験ができるが、他の連携施設において補完可能である。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究が可能である。
- ・臨床倫理委員会が設置されている。
- ・臨床研究センターが設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計5演題以上の学会発表を行っており、他に内科系学会において毎年40～50題の学会発表を行っている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 白井 俊孝

永寿総合病院は、交通の要衝である上野駅から徒歩 5-6 分圏内の好立地にあり、慶應大学医学部中核関連病院として優秀なスタッフを有し、多くの研修医や専攻医(専攻医)を受け入れてきました。このたび、東京医科歯科大学医学部との連携も行き、より質の高い専門研修の場を提供できるように努力していく所存です。救急医療においては、コロナ禍の時期を除くと、年間約 4000 台の救急車を受け入れ、台東区の基幹病院として地域医療に貢献しております。日本内科学会認定医制度教育病院としての実績があり、内科専門研修の基幹施設としての役割を果たしています。屋根瓦方式の研修を基本とし、上級医に気軽に相談できる環境を整え、医療安全にも配慮しながら専攻医の立場に立った臨床研修を目指しております。コモンディーズから専門性の高い疾患に至るまで、経験することができ、医学生の教育にも関与できる場を提供しています。学会発表の場を経験して、臨床医としてのスキルを磨くことができます。主担当医として主体的に現場における医療を実践していくことが可能です。内科専門医をめざして、効果的に研修を行うことができることはもちろんですが、「働き方改革」を念頭に、病院勤務で疲弊することのない理想的な勤務環境の実現に配慮しています。全人的医療を実践できる幅広い臨床能力を培う場を提供したいと考えております。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	11	4	1	3	2	1	2	5	4	3	1	1	1	1	1

7) 経験できる疾患群

研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設(内科系)

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本血液学会認定研修施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本認知症学会教育施設、日本頭痛学会准教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、日本救急医学会専門医指定施設、日本病理学会研修登録施設

## 2.2. 同愛記念病院

責任者名 手島 一陽

責任者診療科名 消化器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	7 (2019.1現在)
病床数 (床)	403 (2019.1現在)
内科系病床数 (床)	139 (2010.1現在)
外来患者数 (人)	282,269 (2015年度実績)
内科系外来患者数 (人)	89,115 (2015年度実績)
入院患者数 (人)	94,812 (2015年度実績)
内科系入院患者数 (人)	36,598 (2015年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	12 (2019.1現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	12 (2019.1現在)
総合内科専門医数 (人)	10 (2019.1現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	9 (2017年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	8回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間1-2題

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・同愛記念病院として適切な労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署が設置されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・院内保育施設があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科学会指導医は12名在籍しています。
- ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的に開催します。
- ・地域参加型のカンファレンス(墨田連携症例検討会)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、内分泌・神経・膠原病を除く10分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会関東支部例会などでの積極的な学会発表をしています。
- ・臨床研究にあたり、倫理委員会が設置され定期的に開催しています。
- ・治験委員会が設置され、定期的に開催しています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 手島 一陽

同愛記念病院の歴史は、1923年(大正12年)に発生した関東大震災に際し、米国赤十字社が中心となり募集を行った義援金の一部をもとに、被災民や貧困者を救済する目的で、母体となる旧財団が設立されたことに遡ります。東京都東部医療圏の急性期病院であり、現在も、その設立の趣旨を全うし、常に地域の要請に応えられる病院を目指しています。内科専門研修は、各科とも熱心な指導医・上級医の指導のもとで行われ、中規模病院ならではの、外科系各科、放射線科、病理科などとの緊密で機動的な連携が可能な点も魅力的です。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	6	3	0	2	2	2	2	1	3	0	1	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域のうち少なくとも11領域、56疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

臨床研修指定病院、日本内科学会認定医制度教育施設、日本循環器学会指定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本血液学研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本感染症学会認定教育施設、日本医学放射線学会専門医修練機関、日本病理学会病理専門医研修施設

## 2.3. 東京都立墨東病院

責任者名 藤ヶ崎 浩人

責任者診療科名 内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	5	（2020.1現在）
病床数（床）	729	（2021.4現在）
内科系病床数（床）	219	（2020.1現在）
外来患者数（人）	341,714	（2020.1実績）
内科系外来患者数（人）	110,422	（2020.1実績）
入院患者数（人）	233,936	（2020.1実績）
内科系入院患者数（人）	76,951	（2020.1実績）

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	38	（2023.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	38	（2023.4現在）
総合内科専門医数（人）	32	（2023.4現在）

#### 3) 剖検数

内科剖検数（件）	11	（2020実績）
----------	----	----------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。専攻医は大医局に机、椅子、ロッカー等完備している。
- ・東京都医員（非常勤）として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課職員担当)がある。
- ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、病児・病後児保育も利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は38名在籍している(下記)。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置する。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2022年度実績12回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的開催(2022年度実績6回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンス(区東部医療圏講演会、江戸川医学会、江東区医師会医学会;2022年度実績8回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2022年度開催実績1回;受講者12名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設は東京都島嶼であり、電話やメールでの面談・Web会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野(少なくとも7分野以上)で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できる(上記)。
- ・専門研修に必要な剖検(2020年度実績11体)を行っている。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室などを整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的開催(2022年度実績12回)している。
- ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2022年度実績12回)している。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている(2022年度実績9演題)

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 藤ヶ崎 浩人

東京都立墨東病院は、東京都東部医療圏の中心的な急性期病院であり、東京都東部医療圏・近隣医療圏、東京都島嶼にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	32	6	4	6	1	3	1	4	4	4	2	1	4	0	3

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、島嶼医療なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライマリケア連合学会認定医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本感染症学会研修施設 など

## 2 4 . 東京共済病院

責任者名 松尾 祐介

責任者診療科名 リウマチ膠原病科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	7 (2017.1現在)
病床数 (床)	355 (2017.1現在)
内科系病床数 (床)	165 (2017.1現在)
外来患者数 (人)	162,288 (2015年度実績)
内科系外来患者数 (人)	57,935 (2015年度実績)
入院患者数 (人)	5,096 (2015年度実績)
内科系入院患者数 (人)	2,361 (2015年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	15 (2017.1現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	14 (2017.1現在)
総合内科専門医数 (人)	9 (2017.1現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	5 (2015年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	1回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。  
・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。  
・ 専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与、福利厚生、労働災害補償などについては、当院の就業規則等に従う。  
・ メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある。  
・ ハラスメントに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある。  
・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室が整備されている。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・ 内科指導医が15名在籍している。  
・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹病院に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。  
・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催している(2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 4回 感染対策 9回)。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・ 研修施設合同カンファレンス(2018年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・ CPCを定期的開催(2015年度実績1回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・ 地域参加型のカンファレンス(2015年度実績 呼吸器科・腎臓内科・循環器科・内分泌代謝科で計5回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・ カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。  
・ 70疾患群のうち、ほとんどすべての疾患群について研修できる。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・ 臨床倫理委員会が設置されている。  
・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2015年度実績1演題)をしている。  
・ その他内科系各学会において演題発表(2015年度実績8演題)を行っている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 松尾 祐介

東京共済病院は目黒区にあり、急性期一般病床 276床、地域包括ケア病棟 40床、療養病棟 39床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っています。東京医科歯科大学病院を基幹とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	9	3	1	3	1	4	2	3	1	1	0	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技術評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

当院は院内に包括ケア病棟、療養病棟があり、急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携などを経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育関連施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、日本呼吸器学会関連施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会准教育施設、日本がん治療認定機構認定研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本病理学会研修登録施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本病態栄養学会栄養管理・NST実施施設

## 25. 日産厚生会玉川病院

責任者名 齋藤 和幸

責任者診療科名 脳神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	9	(2024.3現在)
病床数 (床)	381	(2024.3現在)
内科系病床数 (床)	135	(2024.3現在)
外来患者数 (人)	175,584	(2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	67,812	(2023年度実績)
入院患者数 (人)	104,244	(2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	37,559	(2023年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	8	(2024.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	8	(2024.3現在)
総合内科専門医数 (人)	7	(2024.3現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	2	(2023年度実績)
-----------	---	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	◎	×	◎	○	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・紹介受診重点医療機関、臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・当直明けの午後勤務は免除。医師の働き方改革に真摯に取り組んでいる。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。
- ・給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）などについては就業規則等に従う。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部門が設置されている。
- ・ハラスメント委員会が設置され、相談員が窓口となり対応している。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室が整備されている。
- ・院内の保育園（玉川病院保育室）が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が8名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2023年度開催実績2回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、67疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については本院での実施の他、連携施設において補完もする。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日産厚生会医学研究所が設置されており、臨床研究促進が行われている。
- ・医学研究倫理委員会が設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表を行っている。（2023年度 4演題）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 齋藤 和幸

玉川病院は、東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、区西南部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。  
 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	7	3	1	1	1	3	2	3	0	3	0	1	0	0	0

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本神経学会教育施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本透析医学会教育関連施設、日本認知症学会教育施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設

## 2 6 . 関東中央病院

責任者名 稲葉 彰

責任者診療科名 脳神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	10 (2024.3現在)
病床数 (床)	383 (2024.3現在)
内科系病床数 (床)	153 (2024.3現在)
外来患者数 (人)	220,973 (2024.3現在)
内科系外来患者数 (人)	88,696 (2024.3現在)
入院患者数 (人)	8,172 (2024.3現在)
内科系入院患者数 (人)	2,917 (2024.3現在)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	12 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	12 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	12 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	8 (2023年実績)
-----------	-------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境が整備されています。
- ・関東中央病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルスセンター）があります。
- ・ハラスメント委員会が整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があります。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が12名在籍しています。
- ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全講習会を（2023年16回）、感染対策講習会を（2023年2回）開催しています。専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPC を定期的に開催（2023年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス(城南地区合同カンファレンスなど)を定期的に開催しています。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、全分野で専門研修が可能な症例を診療しています。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
- ・専門研修に必要な剖検（2023年度実績8件）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
- ・治験管理委員会を設置し、定期的に開催しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2023年度実績5演題）をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 中込 良

関東中央病院は、全国に8施設ある公立学校共済組合設置の病院の一つで、東京都内の大学病院、関連病院と連携し、人材の育成や地域医療に貢献してまいりました。本研修プログラムは、全人的、臓器横断的な内科医療の実践に必要な知識と技能の習得のみならず、高い倫理観と社会性を備えた内科専門医の育成を目指します。また同時にリサーチマインドを育み、医学の進歩に貢献し、将来の日本の医療を担う医師の養成も目的とします。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	12	2	2	6	1	2	1	3	0	3	2	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

きわめて希な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。血液、膠原病分野の入院症例はやや少ないものの、外来症例を含め十分な症例の経験が可能です。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本呼吸器学会認定医制度認定施設（内科系）  
 日本呼吸器内視鏡学会関連施設,日本アレルギー学会認定教育施設  
 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設,日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設  
 日本糖尿病学会認定研修施設,日本糖尿病学会認定教育施設,日本内分泌学会認定教育施設  
 日本神経学会認定医制度教育施設,日本消化器内視鏡学会認定医制度修練施設  
 日本消化器内視鏡学会指導施設,日本消化器病学会認定指定施設  
 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修基幹施設  
 日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設  
 日本心血管インターベンション学会認定研修施設  
 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設  
 日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設  
 日本急性血液浄化学会認定指定施設  
 など

## 2 7. 東京都立広尾病院

責任者名 田島 真人

責任者診療科名 腎臓内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	9 (2023年度現在)
病床数 (床)	408 (2023年度現在)
内科系病床数 (床)	136 (2023年度現在)
外来患者数 (人)	136,604 (2023年度現在)
内科系外来患者数 (人)	43,311 (2023年度現在)
入院患者数 (人)	84,747 (2022年度現在)
内科系入院患者数 (人)	25,175 (2023年度現在)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	22 (2022年度現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	22 (2022年度現在)
総合内科専門医数 (人)	14 (2023年度現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	3 (2023年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・東京都非常勤医師として労務環境が保障されている。
- ・メンタルヘルスに適切に対処する部署がある。（総務課担当職員）
- ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が22名在籍している。
- ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全（5回）・感染対策（2回）講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加（4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的開催（4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催（4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。  
また、剖検例についても定期的に専門研修可能である。（3症例）

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を予定している。内科系学会の発表総数は46演題。卒後3～6年目の内科専門研修（旧制度含む）中の医師が筆頭の演題は20演題。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 田島 真人

【内科専攻医へのメッセージ】 広尾病院は東京都西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また東京都に二つある基幹災害拠点病院の一つでもあり、災害に係る研修も可能です。さらに東京都島嶼部（大島、八丈島をはじめとする島々）の後方支援病院であり、島嶼医療に関わる研修を行うことも可能です。また2023年度より病院総合診療科が新設され、同科の研修も行うことが可能です。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	14	7	6	7	3	3	2	4	0	3	0	0	2	0	6

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、高齢者医療に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、東京都島嶼部の後方病院として島嶼医療機関との連携も経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院  
 日本内分泌学会認定教育施設  
 日本糖尿病学会認定教育施設  
 日本消化器病学会専門医制度認定施設  
 日本消化器内視鏡学会指導施設  
 日本神経学会准教育施設  
 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
 日本心血管インターベンション治療学会研修施設  
 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設  
 日本呼吸器学会認定施設  
 日本呼吸器内視鏡学会関連施設  
 日本腎臓学会研修施設  
 日本透析医学会専門医制度教育関連施設  
 日本救急医学会指導医専門医指定施設 ほか

## 28. 新渡戸記念中野総合病院

責任者名 山根 道雄

責任者診療科名 内科・消化器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	5	(2024.3現在)
病床数 (床)	296	(2024.3現在)
内科系病床数 (床)	140	(2024.3現在)
外来患者数 (人)	126,209	(2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	46,177	(2023年実績)
入院患者数 (人)	63,489	(2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	36,439	(2023年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	13	(2024.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	13	(2024.3現在)
総合内科専門医数 (人)	13	(2024.3現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	6	(2024.3現在)
-----------	---	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	7回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・新渡戸記念中野総合病院常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・専攻医の安全および衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じています。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本院の就業規則等に従います。
- ・メンタルストレスについては、精神科にて適切に対処することができます。
- ・ハラスメント委員会が労働安全衛生委員会に付置されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・近隣（徒歩3分）の中野クリニック内に保育所（キッズハウスMOMO）があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が13名在籍しています。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。
- ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を確保します。
- ・CPCを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2023年度開催実績7回）
- ・地域参加型カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応します。
- ・特別連携施設（中野クリニック/上落合おばたクリニック）は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能です。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち少なくとも7分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・70疾患群のうち少なくとも50以上の疾患群について研修できます。
- ・専門研修に必要な剖検（2020年度実績8体、2021年度13体、2022年度10体、2023年度6体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・脳神経病理も含めて開催されるCPCでは、臨床と基礎研究をつなぐリサーチマインドが涵養されます。（2021年度開催実績11回、2022年度11回、2023年度7回）
- ・臨床研究に必要な図書室、病理写真室などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
- ・治験管理委員会を設置し、定期的な受託研究審査会を開催しています。
- ・日本内科学会地方会に年間で5題の学会発表を行っています。（2023年度実績）
- ・内科系学会で年間26題の学会発表を行っています。（2023年度実績）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 山根 道雄

新渡戸記念中野総合病院は創立以来 91年にわたり、地域医療を実践してきた東京都指定2次救急病院（296床：一般急性期病床）であり、日常診療で頻繁に遭遇するcommon diseaseを数多く診ることが出来ます。当院内科は腎臓内科・脳神経内科・消化器内科・循環器内科が主体でありながら、伝統的に総合内科的視点を持つgeneral志向のsubspecialistで構成され、総合診療科に準じる体制となっており、高度の専門性が要求される場合を除いて全員で内科診療を行っている点が特長です。そのため、専攻医は内科全般にわたる症例経験を積むことも、各科毎に細分化されたsubspecialityの専門研修を行うことも可能です。当院は伝統的に若手医師の指導とCPCを重視しており、病院規模に比べ指導医層は厚く、また剖検数も多く、新型コロナウイルスの影響で2022年度の剖検数は10体（剖検率10.4%）に留まりましたが、2019年18体（20.7%）、2018年24体（18.6%）は全国でも有数の剖検率となっています。従って当院CPCは大変充実しており、2024年4月には第540回を迎えました。東京医科歯科大学包括病理学教室の支援のもとコロナ禍においてもHybridでCPCを開催し、全身病理とともに脳神経病理の詳細な検討も行われています。司会を担当する専攻医や研修医は、担当症例の臨床・病理の予習と司会進行を通してdiscussionに参加し、知見を深めるのみならず病態解析力と臨牀的な洞察力を養うことができます。リサーチマインドを養うとともに学術的に高いレベルの高い症例検討会となっています。東京医科歯科大学内科専門研修プログラムの連携施設として、専攻医の将来の選択肢が広がるような、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。初診から入退院さらに外来通院まで経時的に診断・治療を一貫して主治医として担当することにより、一人一人の患者の全身状態のみならず社会的背景・療養環境調整をも包括する、全人的医療を実践できる内科専門医を育成します。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	総合内科	消化器	肝臓	循環器	内分泌	腎臓	糖尿病	呼吸器	血液	神経	アレルギー	リウマチ	感染症	老年病	救急
人数	13	4	4	3	0	5	0	0	1	4	0	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群目録）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することが可能です。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本神経学会認定教育施設、日本認知症学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本循環器学会循環器研修関連施設、日本心血管インターベンション学会研修施設群連携施設

## 29. 河北総合病院

責任者名 林 松彦

責任者診療科名 腎臓、総合診療科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	13 (2023.4現在)
病床数 (床)	407 (2023.4現在)
内科系病床数 (床)	192 (2023.4現在)
外来患者数 (人)	196,622 (2022年度実績)
内科系外来患者数 (人)	85,974 (2022年度実績)
入院患者数 (人)	99,235 (2022年度実績)
内科系入院患者数 (人)	49,186 (2022年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	20 (2023.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	20 (2023.4現在)
総合内科専門医数 (人)	13 (2023.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	7 (2022年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	8回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。  
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。  
・河北総合病院契約職員として勤務環境が保障されている。  
・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。  
・ハラスメントに適切に対処する部署がある。  
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。  
・子育てしながら仕事を続けられるように子育て支援が充実している。  
院内保育所があります。また病後児保育もあるので安心して働くことができます。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医20名が在籍している。  
・河北総合病院内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図っている。  
・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育・研修部を設置している。  
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2022年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。  
・院内内科合同カンファレンス、研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。  
・CPCを定期的開催（2022年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。  
・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。  
・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2022年3回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えている。  
・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育・研修部が対応する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。  
70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できる。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

1) 内科専攻医に求められる姿勢とは、単に症例を経験し既存の治療法を行うにとどまらず、さらに診断技術を深め、疑問に対して解答を求めていく積極的な姿勢である。この能力は生涯にわたって自己研鑽を続けていくために必須であり、特に医師として初期に経験する研修はその能力を取得するにあたり重要である。  
2) 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加する（必須）。  
3) 推奨される講演会として、日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPCおよび内科系サブスペシャリティ学会の学術講演会・講習会。  
4) 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。可能な限り、筆頭演者または筆頭著者として、学会あるいは論文発表を2件以上する  
5) クリニカルクエストを見出して臨床研究を行う。  
6) 内科学に通じる基礎研究を行う。  
7) 地域における学術活動や学術集会に積極的に参加する。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 林 松彦

河北総合病院は地域の中核病院として、診療所からの紹介患者や救急患者を積極的に受け入れていますので、さまざまな疾患を経験する機会が非常に多くあります。私達は総合的な内科診断、治療のみならず、患者の生活背景を踏まえた全人的医療ができる医師の育成を行っています。それを達成した上で、各サブスペシャリティにおいて卓越した能力を持つ総合内科医の育成を目指しています。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	14	4	3	5	2	4	1	1	1	2	1	3	0	1	1

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

地域の中核病院との病病連携や診療所と中核病院の間をつなぐ病診・病病連携の役割を経験できる。 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療が経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

- 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・ 日本内科学会認定医制度教育病院
- 日本脳卒中学会研修教育病院 ・ 日本神経学会専門医制度准教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設 ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 ・ 日本大腸肛門病学会関連施設
- 日本肝臓学会認定施設 ・ 日本腎臓学会研修施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設 ・ 日本透析医学会認定施設
- 日本リウマチ学会認定教育施設 ・ 日本アレルギー学会教育施設
- 日本在宅医学会認定研修施設 ・ 日本緩和医療学会認定研修施設
- 日本病理学会認定病院

### 30. 浴風会病院

責任者名 伊藤 嘉憲 (院長)

責任者診療科名 内科・神経内科

#### 1. 連携施設の概要

##### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	5	(2024.4現在)
病床数 (床)	199	(2024.4現在)
内科系病床数 (床)	199	(2024.4現在)
外来患者数 (人)	69,728	(2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	40,960	(2023年実績)
入院患者数 (人)	67,344	(2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	67,344	(2023年実績)

##### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	11	(2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	11	(2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	2	(2024.4現在)

##### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	3	(2023年実績)
-----------	---	-----------

##### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	◎	○	○	◎	○

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。
- ・給与、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償等については、当院の就業規則等に従う。
- ・研修に必要なインターネットの環境が整備されている。
- ・メンタルストレスに対処する部署がある。
- ・ハラスメント委員会がある。
- ・性別や身体機能、家庭環境に配慮した就労が可能。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・各病棟に複数の指導医が在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・CPCを定期的に開催している。興味により病理解剖の実習も可能。
- ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を開催またはe-learningで実施している。
- ・病棟事の複数職種合同のカンファレンスを開催している。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科（一般・高齢者）、呼吸器内科、神経内科、感染症に関しては、ほぼ定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・以前から行っている死後病理解剖に加え、オートプシーイメージングを行う体制を整備中。
- ・訪問診療、および介護施設での診療を経験することができる。特に、当法人は1500名以上の高齢者が入所する施設複合体であることから、高齢者の多様な健康管理や診療を経験できる。
- ・内科学会および関連学会への参加、発表を推奨。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・研究倫理・医療倫理委員会が設置されている。
- ・専攻医が積極的に学会・論文発表を行える環境を整備する。
- ・認知症を始めとする神経疾患、慢性循環不全、呼吸不全、感染症、栄養・代謝疾患、骨粗しょう症、フレイル・サルコペニアを得意とし、臨床研究や治験も行っている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 阿部 庸子

浴風会は、大正12年の関東大震災のため自活できなくなった高齢者の救護を行う目的で、皇室の御下賜金などにより大正14年に設立され、以来90年にわたり老年医療・福祉の分野で多大な貢献をしてきました。現在、浴風会病院をはじめ特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、ケアハウスなどに大勢の高齢者を擁し、高齢者の総合医療・福祉センターとしての役割を担っています。多様な、複数の病態を有する高齢者に対し、幅広い視野で包括的・全人的な診療を実践できる医師の育成をめざします。また、サブスペシャリティを増やしたい人も歓迎いたします。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	2	1	0	3	0	0	0	1	0	10	0	0	2	6	0

7) 経験できる疾患群

高齢者に関しては、ほぼ全領域の疾患を経験可能である。慢性疾患、悪性疾患、高齢者のリハビリテーション、終末期医療など一つの疾患を見るのではなく、複合的な疾患管理を一人で行えるようになることが目標となる。

8) 経験できる技術・技能

高齢者に関しては、内科専門医に必要な技術・技能を幅広く経験できる。併存疾患の多い高齢者の管理を倫理的配慮のもとに行うことを目指す。

9) 経験できる地域医療・診療連携

在宅療養後方支援病院として、地域のクリニック等と連携し、入院が必要な在宅患者を受け入れる体制を構築している。当院から訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションも派遣しており、それらを経験・同行することも可能。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会 認定医制度教育特殊施設、日本老年医学会 教育施設  
日本神経学会 教育施設、日本リハビリテーション医学会 研修施設  
日本老年精神医学会 指導施設

### 3 1. 東京都立大塚病院

責任者名 藤江 俊秀

責任者診療科名 内科

#### 1. 連携施設の概要

##### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8 (2024年度現在)
病床数 (床)	435 (2024年度現在)
内科系病床数 (床)	135 (2024年度現在)
外来患者数 (人)	184,870 (2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	54,385 (2023年実績)
入院患者数 (人)	8,476 (2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	2,037 (2023年実績)

##### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	18 (2024年度現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	
総合内科専門医数 (人)	19 (2024年度現在)

##### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0 (2023年実績)
-----------	-------------

##### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3回
研修施設群合同カンファレンス	
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・東京都立病院機構任期付病院職員として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課総務グループ）があります。
- ・病院内相談窓口のほか、東京都立病院機構のハラスメント相談窓口を利用可能です。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は18名在籍しています（下記）。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（呼吸器内科部長）、プログラム管理者（呼吸器内科部長、腎臓内科部長））とともに総合内科専門医かつ指導医；基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置して臨床研修委員会の下部組織とします。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2020年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催（2023年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（2019年度実績：医療連携医科講演会6回、救急合同症例検討会1回。2020年度は開催なし）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2023年1回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会（実施時期は未定）が対応します。
- ・特別連携施設（都立松沢病院、都立神経病院、東京都島嶼等）の研修では、電話やメールでの面談・Webカンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。
- ・専門研修に必要な剖検（2024年度見込6体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2020年度実績12回）しています。
- ・治験管理室を設置し、定期的を受託研究審査会を開催（2020年度実績12回）しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2018年度実績7演題、2019年度実績2演題）を予定しています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 藤江 俊秀

都立大塚病院は、東京都区西北部医療圏の中心的な急性期病院であり、区西北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。  
 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	総合内科	消化器	肝臓	循環器	内分泌	腎臓	糖尿病	呼吸器	血液	神経	アレルギー	リウマチ	感染症	老年病	救急
人数	19	5	3	2	0	2	3	3	2	3	1	6	0	0	0

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析学会教育関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会専門医准教育施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、など

## 3 2 . 豊島病院

責任者名 藤ヶ崎 浩人

責任者診療科名 神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8 (2024.4現在)
病床数 (床)	411 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	128 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	1ヶ月平均12,438名 (2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	1ヶ月平均3,975名 (2023年度実績)
入院患者数 (人)	1ヶ月平均719名 (2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	1ヶ月平均240名 (2023年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	13 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	13 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	8 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	7 (2023年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。  
・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。  
・東京都立病院機構任期付病院職員として労務環境が保障されている。  
・メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署(職員相談室)がある。病院内相談窓口のほか、東京都立病院機構のハラスメント相談窓口を利用可能。  
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されている。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・指導医が13名在籍している。  
・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。  
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2023年度実績；医療倫理2回, 医療安全2回, 感染対策5回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・研修施設群合同カンファレンス(2022年度実績1回)を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・CPCを定期的に開催(2023年度実績6回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計6演題以上の学会発表(2022年度実績3演題)を予定している。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 藤ヶ崎 浩人

【内科専攻医へのメッセージ】  
 地方独立行政法人東京都立病院機構都立豊島病院は東京都区西北部の中心的な急性期病院の一つです。近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設と共同して内科専門研修を行い、地域医療に貢献できる内科専門医を育成します。当院の研修の特徴は、他施設に比べ技術習得の機会が多いため今後のサブスペシャリティを目指す上で有利です。また看護師、検査技師等のコメディカル、各科、各部署との連携が取りやすく医療が円滑に行われています。主担当医として入院から退院まで自主性が求められますが、必要に応じて上級医が細かく指導し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医に成長することが可能です。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	11	1		5	1	3		2	1	2			1		

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本感染症学会研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本輸血細胞治療学会I & A 認証施設、東京都区部災害時透析医療ネットワーク正会員施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本老年医学会認定施設、日本心臓血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設、日本超音波医学会専門医研修施設

### 3.3. 練馬光が丘病院

責任者名 新井 雅裕  
責任者診療科名 消化器内科

#### 1. 連携施設の概要

##### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	10	(2022.4現在)
病床数 (床)	342	(2022.4現在)
内科系病床数 (床)	130	(2022.4現在)
外来患者数 (人)	162,164	(2020実績)
内科系外来患者数 (人)	70,193	(2020実績)
入院患者数 (人)	72,594	(2020実績)
内科系入院患者数 (人)	41,199	(2020実績)

##### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	-	(2022.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	12	(2022.4現在)
総合内科専門医数 (人)	14	(2022.4現在)

##### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	2	(2021実績)
-----------	---	----------

##### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	2
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	◎

評価 (4段階評価)  
◎研修できる  
○時に経験できる  
△ほとんど経験できない  
×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・ 臨床研修指定病院である。
- ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・ 専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与、手当、福利厚生（健康保険、年金、健康診断など）、労働災害補償などについては、就業規則等に従う。
- ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が設置されている。
- ・ ハラスメント委員会が地域医療振興協会本部に設置されている。
- ・ 女性専攻医が安心して勤務できるよう、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・ 病院付属の保育所が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・ 内科指導医が12名在籍している。
- ・ 研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ 施設実地調査については臨床研修センターが対応する。
- ・ 特別連携施設は地域医療振興協会内の施設であり、密接な連携が可能である。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・ 70疾患群のうち、ほぼすべての疾患群について研修できる。
- ・ 専攻研修に必要な剖検数を実施している。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ 臨床研究に必要な図書室を整備している。
- ・ 倫理委員会を設置し、定期的で開催している。
- ・ 治験管理室を設置し、必要時に審査会を開催している。
- ・ 日本内科学会地方会に年間1-5演題の発表をしている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 新井 雅裕

練馬光が丘病院は、東京都西北部医療圏における中心的な役割をはたしている急性期病院です。内科には、救急疾患や多数の問題点を有する患者を全人的に診療する総合診療科と臓器別診療を行う専門診療科があります。専攻医の希望を踏まえて、所属科およびローテーションを決定します。地域の連携施設では、本格的な地域医療研修を行うことができます。また、高次機能を有する市中病院、大学病院とも連携していますので、専門医取得後の進路も考慮して、研修内容を組み立てていくことも可能です。我々は、社会的背景、療養環境調整を含む全人的医療を実践できる総合内科専門医、総合内科的視点をもったsubspecialistを育成するための研修を提供します。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	14	7	3	4	3	2	4	3	3	2	1	1	1	2	4

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育関連病院、日本肝臓学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本救急医学会救急専門医指定施設、日本呼吸器学会専門医制度認定施設、日本透析医学会教育関連施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本老年病医学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器内視鏡認定施設、日本感染症学会研修施設、日本血液学会血液研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設

### 3 4 . 多摩北部医療センター

責任者名 村崎 理史

責任者診療科名 循環器内科

#### 1. 連携施設の概要

##### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	9 (2024.4現在)
病床数 (床)	337 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	178 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	124,969 (2023実績)
内科系外来患者数 (人)	50,582 (2023実績)
入院患者数 (人)	10,383 (2023実績)
内科系入院患者数 (人)	4,791 (2023実績)

##### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	10 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	12 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	15 (2024.4現在)

##### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	10 (2023実績)
-----------	-------------

##### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間3題以上



#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	×	◎	△	△

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型教育特殊病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・多摩北部医療センター病院職員として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)がある。
- ・東京都立病院機構では、法人本部、病院において、それぞれセクシュアル・ハラスメント相談窓口を設置している。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は10名在籍している(下記)。
- ・多摩北部医療センター施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム管理委員会(統括責任者(副院長)、プログラム管理者(診療部長)(ともに指導医))にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置する。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2023年度実績2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的に開催(2023年度実績3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンス(2023年度実績 泌尿器科症例検討会、腎臓内科症例検討会、循環器内科症例検討会、消化器外科症例検討会 計4回、糖尿病診療連携の会2回)を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講(2022年度開催実績2回:連携施設にて実施)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に多摩北部医療センター施設群内科東京医師アカデミー専門研修プログラム管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設(島しょ当施設)の専門研修では、電話や週1回の面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち11分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できる(上記)。
- ・専門研修に必要な剖検(2023年10体、2022年8体)を行っている。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室を整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に開催(2023年度実績24回)している。
- ・治験管理室を設置し、定期的に受託審査委員会の開催(2023年度実績8回)、治験審査委員会の開催(2023年度実績1回)をしている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計3演題以上の学会発表(2022年度実績7演題)をしている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 村崎理史

多摩北部医療センターは、東京都北多摩北部医療圏の中心的な急性期病院であり、同・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設との間で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指すことができます。  
 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できます。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	10	3	0	3	1	1	1	0	5	3	0	2	0	2	0

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会教育特殊、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本糖尿病学会教育関連施設など

### 35. 市立青梅総合医療センター

責任者名 長坂 憲治

責任者診療科名 リウマチ膠原病科

#### 1. 連携施設の概要

##### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8 (2023.3現在)
病床数 (床)	529 (2023.3現在)
内科系病床数 (床)	200 (2023.3現在)
外来患者数 (人)	266,191 (2022年度実績)
内科系外来患者数 (人)	106,264 (2022年度実績)
入院患者数 (人)	119,417 (2022年度実績)
内科系入院患者数 (人)	65,539 (2022年度実績)

##### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	20 (2023.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	20 (2023.3現在)
総合内科専門医数 (人)	18 (2023.3現在)

##### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	9 (2023年度実績)
-----------	--------------

##### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・青梅市非常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当）があります。
- ・ハラスメント委員会が青梅市役所に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・隣接する敷地に病院保育所(うめっこはうす)があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は20名在籍しています。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・基幹施設で行われる研修施設群合同カンファレンスを専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。また、研修施設群で行われる講習会を周知し、受講を進めます。
- ・CPCを定期的開催（年6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（西多摩地域救急医療合同カンファレンス、西多摩医師会共催内科症例勉強会、循環器研究会、呼吸器研究会、消化器病研究会、糖尿病内分泌研究会、脳卒中連携研究会など）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。
- ・専門研修に必要な剖検を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。
- ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で6演題の学会発表をしています。
- ・詳しくは年報（<https://mghp.ome.tokyo.jp/pdf/aboutus/management/nenpouR04>）.pdfを参照ください。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 栗原 顕

青梅市立総合病院は、東京都西多摩医療圏の中心的な急性期、3次救急病院です。山岳部を抱え、核家族化による高齢者一人身世帯、都区内の後方病院、介護施設が多く、超高齢化する地方と同様の問題を抱え、急性期医療を行うと同時に地域医療を行っています。東京医科歯科大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	18	5	4	8	1	3	2	3	1	3	0	2	0	0	3

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本救急医学会指導医指定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本リウマチ学会教育施設、日本神経学会准教育施設、日本認知症学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設 など

## 36. 武蔵野赤十字病院

責任者名 杉山 徹  
責任者診療科名 内分泌代謝科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	12	(2023.4現在)
病床数 (床)	611	(2023.4現在)
内科系病床数 (床)	205	(2023.4現在)
外来患者数 (人)	284,305	(2022年度実績)
内科系外来患者数 (人)	122,884	(2022年度実績)
入院患者数 (人)	196,110	(2022年度実績)
内科系入院患者数 (人)	96,026	(2022年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	31	(2023.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	31	(2023.4現在)
総合内科専門医数 (人)	35	(2023.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	15	(2022年度実績)
-----------	----	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修病院基幹型研修指定病院
- ・専攻医の研修に必要な、図書室、机、机上のインターネット環境がある
- ・専攻医として従来の後期研修医同様、常勤嘱託の身分になる
- ・メンタルストレスに対応する部門があり、定期検査があり、相談も可能
- ・ハラスメント委員会があり、種々のハラスメントに対応している
- ・女性医師、薬剤師、技師なども多く、女性が働きやすい環境がある
- ・敷地内に託児所があり夜迄預ける事は可能

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は31名在籍（2023年4月時点）
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的開催（2022年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野の全てにて定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・専門研修に必要な剖検（2022年度実績15体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3 演題以上の学会発表をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 長田 薫

武蔵野赤十字病院は東京都の西側多摩南部地域にある、基幹病院です。  
 31診療科があり、内科系診療科も11あり、充実した臨床環境にあります。  
 本プログラムは二次医療圏の2病院、および専門領域としてがん研有明病院とも連携したプログラムで、内科系の救急医療、専門医療はもとより、地域に根ざした慢性期医療等を研修する機会もあり、幅広い内科研修が可能です。  
 さらに、当院は全国でも有数の研修教育病院でもあり、毎年全国からやる気のある有望な初期研修が集って来ますが、彼らを教え彼らに教えられながらさらに学びを深くする事ができます。  
 また、医療安全に関しては20年以上前から航空業界などを手本としたインシデントシステムを早くから取り入れる等先駆的な試みをしております。  
 内科系診療科は医師数が70名を超え、指導医若手医師とも多数いて、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく臨床ができます。そのような環境では是非ご自身のスキルアップを目指して我々と一緒に臨床をやってみませんか？

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	21	4	4	1	2	1	2	2	3	2	1	1	1	0	0

7) 経験できる疾患群

研修手帳に記載してある13疾患群70症例すべて経験が可能

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、地域の連携病院、診療所、在宅診療医と連携した、高齢化社会に対応して医療も経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会（認定医制度教育病院）、日本腎臓学会（研修施設）、日本透析医学会（認定医制度認定施設）、日本腎臓財団透析療法従事職員研修実習指定施設、日本血液学会（血液研修施設）、日本内分泌学会（内分泌代謝科認定教育施設）、日本循環器学会（循環器専門医研修施設）、日本心血管インターベンション治療学会（研修施設）、日本超音波医学会（超音波専門医制度研修施設）、日本消化器病学会（認定施設）、日本肝臓学会（認定施設）、日本消化器内視鏡学会（指導施設）、日本呼吸器学会（認定施設）、日本呼吸器内視鏡学会（認定施設）、日本神経学会（教育施設）、日本脳卒中学会（認定研修教育病院）、日本糖尿病学会（認定教育施設）、日本救急医学会（専門医指定施設・指導医指定施設）、日本集中治療医学会（専門医研修施設）、日本精神神経科学会（研修施設）、日本静脈経腸栄養学会（NST稼働施設）（実地修練認定教育施設）、日本臨床腫瘍学会（研修施設）、日本栄養療法推進協議会（NST稼働施設）、日本リウマチ学会（教育施設）、日本がん治療認定医機構（認定研修施設）、日本不整脈・日本心電学会（不整脈専門医研修施設）、日本認知症学会（教育施設）、日本緩和医療学会（認定研修施設）、日本高血圧学会（専門医認定施設）

### 3 7. 多摩総合医療センター

責任者名 島田 浩太

責任者診療科名 リウマチ膠原病科

#### 1. 連携施設の概要

- 1) 診療科数・病床数・患者数情報 R5 (2023) 年度
- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| 内科系診療科数 (科)  | 12                |
| 病床数 (床)      | 789               |
| 内科系病床数 (床)   | 268               |
| 外来患者数 (人)    | 440,781 延数        |
| 内科系外来患者数 (人) | 209,338 延数 2022年度 |
| 入院患者数 (人)    | 215,309 延数        |
| 内科系入院患者数 (人) | 9,485 2022年度      |
- 2) 指導医・専門医数情報 R5 (2023) 年
- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 内科指導医数 (人) ※非常勤含む | 49 2024.4月現在 |
| 内科指導医数 (人) ※常勤医のみ | 47 2024.4月現在 |
| 総合内科専門医数 (人)      | 51 2024.4月現在 |
- 3) 剖検数 R3 (2022) 年度
- |           |              |
|-----------|--------------|
| 内科剖検数 (件) | 25 2024.4月現在 |
|-----------|--------------|
- 4) 講習会等の開催 2022年度
- |                |      |
|----------------|------|
| JMECC          | 開催   |
| 医療倫理講習会        | 開催   |
| 医療安全講習会        | 開催   |
| 感染対策講習会        | 開催   |
| CPC            | 開催   |
| CPCの開催回数       | 開催 9 |
| 研修施設群合同カンファレンス | 予定なし |
| 地域参加型カンファレンス   | 開催   |
| 倫理委員会          | 開催   |
| 臨床研究センター       | 開催   |
| 治験センター         | 予定なし |
| 内科学会活動         | 開催   |



#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価 2023/4/25現在

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)  
 ◎研修できる  
 ○時に経験できる  
 △ほとんど経験できない  
 ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・東京都非常勤医師として勤務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署(庶務課医事課、職員担当、医局役員)がある。
- ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は47名在籍している
- ・内科専門研修プログラム管理委員会(内科系副院長、プログラム統括責任者(内科系診療科部長1名)
- ・副プログラム統括責任者(内科系診療科医長2名)、基幹施設内科専門研修委員長(内科系診療科部長1名)(ともに総合内科専門医かつ指導医)
- ・内科専門研修プログラム委員会は、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を臨床研修管理委員会に設置する。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催(2023年度実績4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的開催(2023年度実績9回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・多摩地区の連携施設勤務医も参加する地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医に研修期間中のJMECC受講(2023年度開催実績2回:受講者14名)を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設島嶼診療所の専門研修では、電話やメールでの面談・Web会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している(上記)。
- ・その結果70疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくとも35以上の疾患群)について研修できる(上記)。
- ・専門研修に必要な剖検(2019年度26体、2020年度29体、2021年度28件)を行っている。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室などを整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的開催(2023年度実績11回)している。
- ・治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催(2023年度実績12回)している。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 島田 浩太

島田浩太【内科専攻医へのメッセージ】  
 東京都多摩地区の中心的な急性期第三次医療機関です。卓越した指導医陣のもと、内科の全領域で豊富な症例を経験できます。東京 ER（一次～三次救急）での救急医療研修（必修）と合わせて、総合診療基盤と知識技能を有した内科専門医を目指してください。新制度では、全国の連携施設や特別連携施設での研修を通じて、様々な地域における医療の重要性と問題点を学び、また貢献できます。お待ちしております！

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	51	17	6	12	7	4	6	11	3	2	4	11	3	0	20

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、島嶼医療なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本アレルギー学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設、日本内分泌代謝科学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本感染症学会研修施設、など

### 3 8 . 榊原記念病院

責任者名 七里 守  
責任者診療科名 循環器内科

#### 1. 連携施設の概要

##### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	1 (2024.4現在)
病床数 (床)	307 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	232 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	66,352 (2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	43,440 (2023年度実績)
入院患者数 (人)	9,813 (2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	6,825 (2023年度実績)

##### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	14 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	14 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	14 (2024.4現在)

##### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	1 (2023年実績)
-----------	-------------

##### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題



#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	△	○	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所病児保育があります。
- ・病院6階に専攻医宿舎を完備しており、独身者であれば利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

指導医が14名在籍しています。

- ・循環器内科の研修ではCCU、心臓カテーテル検査・治療(PCI、末梢血管インターベンション)、心臓電気生理検査・治療(カテーテルアブレーション、植込みデバイス)、心エコー検査、放射線画像診断、心臓リハビリ、成人先天性心疾患を研修できます。また、各種回診、各種カンファレンス(内科カンファレンス、心エコーカンファレンス、手術検討、シネ検討会、不整脈検討会、ブレインハートカンファレンス)、レジデント教育講演、外部講師による定例講演会などが行われます。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催(2020年実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス「神明台ハートセミナー」を定期的で開催し専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、循環器および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を行っています。

卒後3～6年目の内科専門研修中の医師が筆頭演者の内科系学会での発表数は、2023年度は5件あり、学術活動をより多く経験できるよう指導しています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 七里 守

榊原記念病院は東京都北多摩南部地域の循環器専門の地域医療支援病院であり、東京医科歯科大学の内科専門研修プログラムの連携施設として循環器内科研修を行い内科専門医の育成を行います。当院は開心術数が年間1000件を超えるなど、豊富な症例数を誇っています。指導医は心血管インターベンション、心不全、不整脈（カテーテルアブレーション）、ICDやペースメーカー植え込み、心エコー、画像診断(CT/ MR I/ 核医学)、心臓リハビリ、成人先天性心疾患など各領域の専門家がそろっており、循環器診療においてほぼすべての領域をカバーできます

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	14			36											1

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本循環器学会認定 循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定 研修施設、日本集中治療医学会認定 日本集中治療医学会専門医 研修施設、日本脈管学会認定 研修指定施設、日本不整脈心電学会認定 不整脈専門医 研修施設、日本動脈硬化学会専門医制度 教育病院  
経カテーテルの大動脈弁置換術関連学会協議会 経カテーテルの大動脈弁置換術 指導施設、日本核医学会専門医 教育病院、日本超音波医学会認定 超音波専門医研修施設、日本成人先天性心疾患学会認定 成人先天性心疾患専門医 総合修練施設、日本内科学会認定医制度審議会推薦 教育関連 特殊病院、公益社団法人 日本医学放射線学会 画像診断管理認証施設、経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテルの大動脈弁置換術実施施設、補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA補助循環用ポンプカテーテル実施施設、日本循環器学会 経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設、日本心血管インターベンション治療学会認定 潜在性脳梗塞に対する卵円孔開閉閉鎖術実施施設、日本Pediatric Interventional Cardiology学会、日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定 経皮的動脈管閉鎖術施行施設、日本Pediatric Interventional Cardiology学会、日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定 経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設、日本循環器学会 左心耳閉鎖システム実施施設、経皮的カテーテル心筋凍焼灼術[クライオバルーン (Arctic Front Advance)] 実施施設、経皮的カテーテル心筋焼灼術[ホットバルーン (SATAKE・Hot Balloon)] 実施施設、経皮的カテーテル心筋焼灼術[レーザーバルーン (Heart Light)] 実施施設、パワードシースによる経静脈的リード除去術認定施設 レーザーシース (Evolution) 実施施設、経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会/経カテーテル肺動脈弁置換管理委員会認定 経カテーテルの肺動脈弁置換術実施施設 等

## 39 公立昭和病院

責任者名 藤田 彰

責任者診療科名 血液内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	10 (2022.3現在)
病床数 (床)	485 (2022.3現在)
内科系病床数 (床)	158 (2022.3現在)
外来患者数 (人)	246,382 (2022年度実績)
内科系外来患者数 (人)	90,834 (2022年度実績)
入院患者数 (人)	131,393 (2022年度実績)
内科系入院患者数 (人)	60,961 (2022年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	23 (2022.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	23 (2022.3現在)
総合内科専門医数 (人)	29 (2022.3現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	13 (2022年度実績)
-----------	---------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	6回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 公立昭和病院非常勤医師として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医）があります。
- ハラスメント委員会が院内に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地近隣に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- 指導医は23名在籍しています（下記）。
- 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長、内視鏡センター長）、プログラム管理者（副院長、血液内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）
- 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022年度5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPCを定期的に開催（2022年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群合同カンファレンス（2022年度：年2回開催）
- 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2022年度開催実績1回：受講者11名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。
- 専門研修に必要な剖検（2021年度12体、2022年度13体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。
- 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2022年度実績8回）しています。
- 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2022年度実績10回）しています。
- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計2演題以上の学会発表（2022年度実績5演題）をしています。内科系各診療科で専門領域学会での活動を行っています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 川口 淳

公立昭和病院は、臨床研修指定病院・外国医師臨床修練指定病院であり、かつ東京都北多摩北部医療圏の三次救急を担う、当二次医療圏の中心的な急性期病院です。連携施設とも合わせて内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

コロナ禍においては、第二種感染症指定医療機関として、感染症科、救急科、呼吸器内科を中心に全診療科が協力して対応しました。

主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

連携施設の選択は、希望に応じ柔軟に対応したいと考えています。

本プログラムでは三次救急、地域がん診療連携拠点病院など地域医療の中核を担う当院で充実した研修を目指すだけでなく、ワーク・ライフバランスや子育てなども視野に入れて、働きやすい病院、働きやすい二次医療圏内での内科専門医研修を目指し、各種学会の認定施設としてサブスペシャリティ研修も視野に入れ、将来の当地域の医療の担い手を育てていきたいと考えています。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	29	12	7	8	5		3	4	4	6		2	3		8

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域。  
70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本アレルギー学会認定教育施設  
日本感染症学会認定研修施設、日本消化器病学会認定施設  
日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設  
日本消化器がん検診学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設  
日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本血液学会認定血液研修施設、日本甲状腺学会認定専門医施設  
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
日本心血管インターベンション治療学会  
日本呼吸器学会認定施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設  
日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設  
日本神経学会准教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設  
など

## 40. 国立病院機構 災害医療センター

責任者名 大林 正人

責任者診療科名 脳神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8 (2024.3.現在)
病床数 (床)	455 (2024.3.現在)
内科系病床数 (床)	208 (2024.3.現在)
外来患者数 (人)	9,475 (2024.3実績)
内科系外来患者数 (人)	3,672 (2024.3実績)
入院患者数 (人)	11,829 (2024.3実績)
内科系入院患者数 (人)	4,504 (2024.3実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	不明 (2024.4.実績)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	16 (2024.4.実績)
総合内科専門医数 (人)	18 (2024.4.実績)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	6 (2024.3実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	12回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・臨床研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、本院の就業規則等に従う。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・院内の保育園が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が18名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える予定である。
- ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、ほぼすべての疾患群について研修できる。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究が可能である。
- ・倫理委員会が設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間3題以上の学会発表を毎年行っている。
- ・内科系学会の後援会等で多数の学会発表を行っている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 大林 正人

災害医療センター内科は、3次救急病院である強みを生かした豊富な急性期症例から稀少疾患まで研修が可能です。東京および周辺県の関連病院と連携して、医療の最先端を担う研究志向の内科医から、地域の中核病院で優れた専門診療を行う医師まで幅広い内科医を育成しています。新制度のもとでは、さらに質の高い効率的な内科研修を提供し、広い視野、内科全体に対する幅広い経験と優れた専門性を有する内科医を育成するプログラムを構築しました。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	18	4	1	7	1	3	1	2	2	2	1	2	1	0	3

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会認定教育施設など

## 4 1. 東京逋信病院

責任者名 椎尾 康

責任者診療科名 神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	8 (2024.4現在)
病床数 (床)	461 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	175 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	261,398 (2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	102,811 (2023年度実績)
入院患者数 (人)	111,910 (2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	67,168 (2023年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	28 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	28 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	22 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	8 (2023年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	11回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・東京逓信病院非常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
- ・ハラスメント担当者がいます。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は28名在籍しています。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療科部長）、副統括責任者（診療科部長））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会（研究教育委員会）と臨床研修センター（経営管理課職員係）を設置します。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（動画視聴等Webで実施）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催（2023年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（四病院消化器研究会、東京チェストカンファレンス、臨床内分泌代謝研究会等）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。
- ・専門研修に必要な剖検（2023年度実績8体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的で開催（2023年度実績8回）しています。
- ・治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2023年度実績8回）しています。
- ・日本内科学会や同地方会及び内科系学会での発表数は30件（2022年度実績）しています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 椎尾 康

当院は都区中央部医療圏の中心的な急性期病院で、医療圏の紹介患者、救急患者、さらには都外など遠方からの紹介患者も積極的に受け入れています。近隣の大学病院や基幹病院と連携しており、人材の交流も盛んです。将来的なサブスペシャリティだけでなく内科的疾患全般に対処できる臨床能力を身につけることを重視したプログラムとなっており、また主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。症例発表等の学会活動にも力を入れていますので、リサーチマインドをもって情報発信することを心がけましょう。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人 数	22	5	4	5	3	1	3	4	2	5	1	0	2	0	2

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本内分泌学会認定教育施設、日本肥満学会認定肥満症専門病院、日本動脈硬化学会専門医制度教育病院、日本臨床神経生理学会教育施設（脳波・筋電図）、日本肝臓学会認定施設、日本消化器病学会専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本神経学会認定教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本高血圧学会高血圧認定研修施設、日本血液学会専門研修教育施設

## 4 2. 横浜南共済病院

責任者名 藤井 洋之  
責任者診療科名 循環器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数(科)	8	(2024.5現在)
病床数(床)	565	(2024.5現在)
内科系病床数(床)	209	(2024.5現在)
外来患者数(人)	322,687	(2023年度実績)
内科系外来患者数(人)	125,922	(2023年度実績)
入院患者数(人)	15,905	(2023年度実績)
内科系入院患者数(人)	6,668	(2023年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数(人) ※非常勤含む	23	(2024.5現在)
内科指導医数(人) ※常勤医のみ	23	(2024.5現在)
総合内科専門医数(人)	17	(2024.5現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数(件)	5	(2023年度実績)
----------	---	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価(4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院の職員として勤務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。
- ・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各1名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所が整備されている。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が23名在籍している（下記）。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023年度実績 安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的に開催（2023年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンス（金沢区CPC、消化器疾患内科・外科・病理カンファレンス、神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会、呼吸器疾患医療連携セミナーなど 各科および複数科合同で計10回程度）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2022年度実績 2演題）をしている。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 藤井 洋之

横浜南共済病院は神奈川県横浜南部医療圏の急性期病院であり、東京医科歯科大学附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	17	9	3	9	0	2	2	4	3	2	2	5	1	1	6

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本透析医学会認定医制度認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本神経学会専門医制度認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、ステントグラフト実施施設、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設、日本認知症学会教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、など

### 43. 横須賀共済病院

責任者名 豊田 茂雄

責任者診療科名 血液内科

#### 1. 連携施設の概要

##### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2024.4現在）
病床数（床）	740	（2024.4現在）
内科系病床数（床）	333	（2024.4現在）
外来患者数（人）	415,470	（2023年度実績）
内科系外来患者数（人）	147,603	（2023年度実績）
入院患者数（人）	20,609	（2023年度実績）
内科系入院患者数（人）	10,074	（2023年度実績）



##### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	20	（2024.5現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	20	（2024.5現在）
総合内科専門医数（人）	16	（2024.4現在）

##### 3) 剖検数

内科剖検数（件）	8	（2023年度実績）
----------	---	------------

##### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	7回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	
内科学会活動	年間3題以上

#### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	◎

評価（4段階評価）

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・ 基幹型臨床研修病院の指定を受けている。
- ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・ 横須賀共済病院の専攻医として勤務環境が保障されている。
- ・ メンタルストレスに適切に対処する部署がある。
- ・ ハラスメント委員会が整備されている。
- ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・ 近傍に院内保育所があり、利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・ 指導医が20名在籍している。
- ・ 本プログラム管理委員会を設置して専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会と連携を図る。
- ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2023年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ CPCを定期的で開催（2023年度実績7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・ プログラムに所属する全専攻医に、JMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2023年度開催実績1回）
- ・ 日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急科の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・ 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも65以上の疾患群）について研修できる。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ 臨床研修に必要な図書室、インターネット環境などを整備している。
- ・ 倫理委員会を設置し、定期的で開催している。
- ・ 治験センターが設置している。
- ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計3演題以上の学会発表をしている。（2023年度実績8演題）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 渡邊 秀樹

横須賀共済病院は横須賀・三浦地区の二次医療圏の中核病院として、急性期医療を担っています。特に救急医療に力を入れており、内科専門医研修として十分な症例を経験できます。また、各内科の専門医・指導医が豊富にいるため、内科専門医研修医への指導体制も充実しています。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援などを積極的に行っています。さらに地域医療支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療からがん診療、そして地域連携と多様な病状・病態の症例を経験可能です。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	16	7	5	8	0	5	2	3	4	1	0	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定内科専門医教育病院、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本腎臓病学会認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本血液学会認定研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本透析医学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会認定医制度教育関連施設、日本輸血細胞治療学会認定医制度認定施設、日本心血管インターベンション学会研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

## 4 4 . 平塚共済病院

責任者名 小林 一士

責任者診療科名 循環器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	8	（2024.3現在）
病床数（床）	441	（2024.3現在）
内科系病床数（床）	241	（2024.3現在）
外来患者数（人）	214,879	（2024.3現在）
内科系外来患者数（人）	109,372	（2024.3現在）
入院患者数（人）	106,800	（2024.3現在）
内科系入院患者数（人）	65,108	（2024.3現在）

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	21	（2024.3現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	21	（2024.3現在）
総合内科専門医数（人）	20	（2024.3現在）

#### 3) 剖検数

内科剖検数（件）	8	（2023年実績）
----------	---	-----------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	○	◎

評価（4段階評価）

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・身分について：平塚共済常勤、労働環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。
- ・ハラスメント委員会が整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が21名、総合内科専門医が20名在籍している。
- ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2023年度実績医療安全4回、感染対策2回、医療倫理2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPCを定期的開催（2023年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、膠原病の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。救急は搬送患者が多く、週2日は専門医が指導に当たる環境にある。血液、感染症、アレルギーに関しては上記診療科で随時診療を行っている。
- ・専門研修に必要な剖検（2023年度実績8体）を行っている。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。
- ・臨床研修に必要な図書室・インターネット環境などを整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的開催している。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 小林 一士

当院の内科病床は200床を超え、地域連携支援病院として近隣の医療機関から紹介患者を広く受入れています。当院は二次救急医療機関ですが、救急センター、心臓センター、脳卒中センターを有し、三次相当の救急患者にも対応する実質 2.5 次の救急医療を実践しています。このため、内科医として経験すべき急性及び慢性疾患を一通り経験可能です。当院は神奈川県がん診療連携指定病院であり、がん診療の専門的研修も可能です。専攻医の皆さんには、指導医の下で主担当医として入院患者を受持ち、検査～診断～治療に至る一連の診療を実践してもらいます。また、内科スタッフとして、内科救急当番・内科当直の救急業務も担ってもらいます。疾患だけを診るのではなく、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する力を養ってもらいます。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	20	7	0	9	2	3	2	7	0	3	3	2	0	0	1

7) 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することが出来ます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設 (内科系)

内科専門研修基幹施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本胆道学会認定指導施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ、日本内分泌学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設呼吸器内科、NST稼働認定施設、など

## 4 5 . AOI国際病院

責任者名 平尾 見三

責任者診療科名 循環器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	10 (2021.3現在)
病床数 (床)	328 (2021.3現在)
内科系病床数 (床)	53 (2021.3現在)
外来患者数 (人)	117,606 (2019年実績)
内科系外来患者数 (人)	36,653 (2019年実績)
入院患者数 (人)	112,999 (2019年実績)
内科系入院患者数 (人)	64,217 (2019年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	5 (2021.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	5 (2021.3現在)
総合内科専門医数 (人)	10 (2021.3現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0 (2019年実績)
-----------	-------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	0
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	△	○	○	○	○	○

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・研修に必要なインターネット環境がある。図書室については受入までにより充実した環境を整備予定。・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、当法人の就業規則等に従う。・メンタルストレスに適切に対処する部門として健康管理センターが置かれている。・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の休憩室、仮眠室、シャワー室が整備されている。・当院勤務者専用の保育園（コスモス保育園）が利用可能である。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

・内科指導医が5名在籍している。  
・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。  
・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・CPCを随時開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。  
・プログラムに所属する全専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

・カリキュラムに示す主要な内科領域で専門研修が可能な症例数を診療している。  
・70疾患群のうち、まれな症例については基幹病院と連携して研修できる。  
・専攻研修に必要な剖検数については当院での実施の他、連携施設において補完もする。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

・AOI国際病院では内科系診療科に関連する口座が開設され、臨床研究が可能である。  
・日本内科学会及び関連学会において計10題の学会発表を行っている。（2016年度以降）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 川島 朋之

・AOI国際病院は、開院して8年程度の新しい病院で、国内有数の医療法人グループである葵会の基幹病院として、救急医療及び先進的医療を行っております。院内では、東京医科歯科大学、東京慈恵会医科大学、東邦大学、昭和大学等で研鑽を積まれた医師が活躍しており、専攻医の先生方が不安なく相談でき、積極的に発言が出来る風通しの良い職場作りを心掛けています。また、専攻医の先生が手技者となる機会をなるべく設けるようにするとともに、一般病院で疎かになりがちなアカデミックな研究・発表・論文作成の機会も大切にしております。都内アクセスも良く、ロケーションに恵まれながら、比較的労働条件も良いですので、是非とも当院での研修を御一行頂ければ幸いです。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	9	2	1	7	1	0	5	2	0	0	1	1	0	0	1

7) 経験できる疾患群

疾患群項目表にある主要領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

疾患群項目表にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら基幹病院と連携し幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、学会認定不整脈専門医研修施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院

## 4 6 . 虎の門病院分院

責任者名 鈴木 文孝

責任者診療科名 肝臓内科

詳細については作成中

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)  
 病床数 (床)  
 内科系病床数 (床)  
 外来患者数 (人)  
 内科系外来患者数 (人)  
 入院患者数 (人)  
 内科系入院患者数 (人)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む  
 内科指導医数 (人) ※常勤医のみ  
 総合内科専門医数 (人)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)

#### 4) 講習会等の開催

JMECC  
 医療倫理講習会  
 医療安全講習会  
 感染対策講習会  
 CPC  
 CPCの開催回数  
 研修施設群合同カンファレンス  
 地域参加型カンファレンス  
 倫理委員会  
 臨床研究センター  
 治験センター  
 内科学会活動

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価													

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

3. 連携施設における研修環境について

1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）



2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）



3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）



4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）



5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 高谷 久史

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人 数															

7) 経験できる疾患群

8) 経験できる技術・技能

9) 経験できる地域医療・診療連携

10) 学会認定施設（内科系）

## 4 7. 川崎市立多摩病院

責任者名 奥瀬 千晃  
責任者診療科名 総合診療内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	10	（2022.3現在）
病床数（床）	376	（2022.3現在）
内科系病床数（床）	154	（2022.3現在）
外来患者数（人）	186,755	（2020年実績）
内科系外来患者数（人）	78,408	（2020年実績）
入院患者数（人）	7,513	（2020年実績）
内科系入院患者数（人）	3,284	（2020年実績）



#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	
内科指導医数（人）※常勤医のみ	20（2022.3現在）
総合内科専門医数（人）	9（2021.3現在）

#### 3) 剖検数

内科剖検数（件）	3（2019年実績）
----------	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催予定
CPCの開催回数	3
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催予定
臨床研究センター	設置予定
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎

評価（4段階評価）

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・聖マリアンナ医科大学任期付き助教として勤務環境が保証されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する相談窓口があります。
- ・法人ハラスメント委員会が整備されています。
- ・敷地外に保育所があり、利用可能です。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医有資格者は、名在籍しております。
- ・内科専攻医研修委員会を設置しており、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設、連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策の講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・JMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、定期的に専門研修が可能な症例数を診察しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演台以上の学会発表をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 奥瀬 千晃

当院は川崎市が設立し聖マリアンナ医科大学が指定管理者制度のもと運営する公設民営の病院です。そのため、市中病院としての地域に根付いた臨床経験と大学病院としての教育や研究、専門性の双方が得られる恵まれた環境にある病院です。  
近隣医療圏の多様な地域特性を持つ連携施設と協力しながら、あらゆる場面や環境に応じた診療が提供できる医師を育成します。臨床だけではなく、教育・研究においても体系的に学ぶことができる環境を提供します。  
コロナ禍の厳しい状況が続いていますが、全国各地から高い志を持った専攻医の方々が充実した研修の日々を送っています。是非皆さんにも当院での研修を経験して頂きたいと思っています。  
スタッフ一同、皆さんからの連絡を心よりお待ちしております。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	総合内科	消化器	肝臓	循環器	内分泌	腎臓	糖尿病	呼吸器	血液	神経	アレルギー	リウマチ	感染症	老年病	救急
人数	13	5	4	3	1	1	1	2	1	4	2	1	0	1	7

7) 経験できる疾患群

きわめてまれな疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

・当院は、地域医療支援病院です。  
・幅広くcommon diseaseを研修し、病診連携や高齢者医療などを経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本血液学会血液研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本肝臓学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会不整脈専門医研修施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本神経学会認定施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本感染症学会連携研修施設

## 4 8 . 聖マリアンナ医科大学病院

責任者名 安田 宏  
責任者診療科名 消化器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	9 (2022.3現在)
病床数 (床)	955 (2022.3現在)
内科系病床数 (床)	378 (2022.3現在)
外来患者数 (人)	599,455 (2022年実績)
内科系外来患者数 (人)	232,585 (2022年実績)
入院患者数 (人)	276,215 (2022年実績)
内科系入院患者数 (人)	118,723 (2022年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	113 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	113 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	86 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	27 (2023年度実績)
-----------	---------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	4
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネットの環境があります。
- ・聖マリアンナ医科大学病院の専攻医として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
- ・ハラスメント委員会が整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・近傍に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が113名在籍しています。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・指導医が111名在籍しています。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域および多職種参加型の9内科合同カンファレンスを定期的に参画し、common diseaseや様々な症例を学ぶ機会を設けています。
- ・CPCを定期的に開催し、内科・病理との幅広いディスカッションに参加する機会が設けられています。
- ・JMECCを主催しており、優先的に専攻医が受講することができます。
- ・特別連携施設での研修では、電話やインターネットを使用して指導医がその施設での研修指導を行います。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・専門研修に必要な剖検（平均30体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境を整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。
- ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会（月1回）を開催しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1題以上の学会発表をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 出雲 昌樹

東京と隣接した地域に位置する、地域密着型特定機能病院です。2022年12月末に新病院が竣工しました。年間6000台以上の救急車の応需があり、三次急までの様々な救急疾患を経験することができます。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	86	14	4	23	4	8	4	8	8	11	3	15	4	4	20

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携を経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本医学放射線学会放射線科専門医制度修練機関（画像診断・IVR部門、核医学部門、放射線治療部門）、日本救急医学会救急科専門医・指導医指定施設、日本麻酔科学会日本病理学会病理専門医制度研修認定施設A、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本核医学会専門医教育病院、日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本アレルギー学会認定教育施設（小児科/皮膚科/リウマチ・膠原病・アレルギー内科）、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会専門医制度教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本ペインクリニック学会指定研修施設、日本臨床薬理学会専門医制度研修施設、日本老年医学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本脈管学会認定研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本放射線腫瘍学会認定施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設、日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院、日本集中治療医学会専門医研修施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設認定、日本感染症学会研修施設認定、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本老年精神医学会専門医制度認定施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本東洋医学会指定研修施設、日本心臓リハビリテーション学会認定研修施設、日本カプセル内視鏡学会指導施設、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部・腹部ステントグラフト実施施設、日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医制度研修施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設、日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本てんかん学会認定研修施設

## 4 9. 新百合ヶ丘総合病院

責任者名 高橋 良英  
責任者診療科名 循環器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	15 (2024.4現在)
病床数 (床)	563 (2024.4現在)
内科系病床数 (床)	110 (2024.4現在)
外来患者数 (人)	334,127 (2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	76,678 (2023年度実績)
入院患者数 (人)	187,127 (2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	67,003 (2023年度実績)



#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	35 (2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	35 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	26 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	3 (2023年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	あり
内科学会活動	年間1-2題

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	○	○	○	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- 初期臨床研修制度 基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 新百合ヶ丘総合病院内科研修医として勤務環境が保障されています。
- メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（総務課）があります。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が男女別に整備されています。
- 病院に関連する保育施設があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- 内科指導医は30名在籍しています。
- 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器・肝臓病研究所所長）、プログラム管理者（消化器内科部長）が、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（年計5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群の一部で合同カンファレンスを定期的に主催して、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPCを定期的で開催（2023年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 地域参加型のカンファレンス（新百合ヶ丘病診連携の会；年2回、川崎北部 心臓血管病フォーラム；年1回、新百合ヶ丘循環器フォーラム；年1回、新百合ヶ丘イブニングカンファレンス；年1回、新百合ヶ丘がんセミナー；年1回など）を定期的で開催していますが、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。
- プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（年1回開催を予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます。
- 専門研修に必要な剖検（2022年度実績3体、2023年度3体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- 臨床研究に必要な図書室、カンファレンスルームなどを整備しています。
- 倫理委員会を設置し、年1-2回開催しています。
- 治験管理室を設置しています。
- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に2023年度に計1演題の学会発表をしています。内科専攻医の内科学会での発表数は6演題です。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 高橋 良英

新百合ヶ丘総合病院は神奈川県川崎北部医療圏において中心的な役割を担う急性期病院です。当院は、先進医療や予防医学の実践、脳卒中・循環器病の救急医療体制の実現、および充実したがん治療の提供を目標に総合病院としての機能を拡充しながら地域の方々の健康を支えたいと考えています。このような当院の特性を活かしつつ、近隣の医療機関とも連携した独自の内科専門医の育成プログラムを準備しています。研修する診療科の決定においては、個々の専攻医の希望を尊重して柔軟に対応し、内科研修終了後にサブスペシャリティの研修へスムーズに移行できるよう配慮しています。

専攻医には入院患者の担当医として、初療から入院・退院・外来通院までの一連の診療を分担することにより幅広く研鑽を積んでいただきます。また、個々の患者を診療する中で、患者の社会的背景を理解し療養環境の調整業務においてもリーダーシップの発揮できる包括的かつ全人的な対応力の備った内科専門医の育成を目指し指導しています。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	29	12	8	6	1	6	1	7	3	3	2	1	0	0	0

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育関連病院  
 日本消化器病学会認定施設  
 日本肝臓学会認定施設  
 日本消化器内視鏡学会指導施設  
 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設  
 日本脈管学会認定研修関連施設  
 日本呼吸器学会関連施設  
 日本神経学会教育施設  
 日本脳卒中学会研修教育病院  
 日本腎臓学会研修施設  
 日本血液学会認定血液研修施設  
 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設  
 日本病院総合診療医学会認定施設  
 日本がん治療認定医機構認定研修施設  
 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設  
 日本認知症学会教育施設 など

## 50. 横浜みなと赤十字病院

責任者名 萩山 裕之

責任者診療科名 リウマチ科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	11	(2022.3現在)
病床数 (床)	634	(2022.3現在)
内科系病床数 (床)	232	(2017.1現在)
外来患者数 (人)	280,715	(2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	111,469	(2023年実績)
入院患者数 (人)	15,844	(2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	7,361	(2023年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	35	(2022.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	33	(2022.3現在)
総合内科専門医数 (人)	19	(2022.3現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	10	(2021年度)
-----------	----	----------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	9回 (2023年度実績)
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・横浜市立みなと赤十字病院の常勤嘱託医として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスには労働安全衛生委員会が適切に対処します。
- ・ハラスメント防止規定に基づき委嘱された相談員がいます。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医が33名在籍しています。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会（プログラム統括責任者（副院長）（指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育研修センターを設置します。
- ・医療倫理（2023年度実績2回）・医療安全（2023年度実績2回）・感染対策講習会（2023年度実績2回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・研修施設群合同カンファレンス（2024年度予定）を参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的に開催（2023年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（みなとセミナーなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2023年度1回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育研修センターが対応します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、内分泌、代謝、腎臓、血液、膠原病、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます。
- ・専門研修に必要な剖検（2023年度実績28体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
- ・臨床倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023年度実績11回）しています。
- ・医療倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023年度実績7回）しています。
- ・臨床試験支援センターを設置し、治験審査委員会（2023年度実績12回）、自主臨床研究審査委員会（2023年度実績13回）を定期的に開催しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2022年度実績4演題）をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 萩山 裕之

当院は、横浜市の中心部である中区に立地し、山下公園、横浜中華街といった繁華街から徒歩15分という距離にあります。地域医療支援病院、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院に指定され、救急車の受け入れ台数は例年10,000台を超え全国でも際立つ存在となっています。またがんセンターや心臓病などのセンター化を進め、PET/CT、高機能MRI・CT、手術支援ロボット等々を整備し、横浜南部医療圏の地域医療の中核を担っています。救急医療、悪性疾患に対する集学的治療、緩和医療、地域医療機関への診療支援などを積極的に行っており、経験できる症例数は多く多彩であり、各内科系診療科の専門医・指導医が指導に当たります。内科専攻医として、救急から緩和、地域医療の幅広い研修や、各領域の専門性の高い研修が可能です。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	20	8	4	10	3	3	4	5	3	4	4	2	1	0	2

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本腎臓学会研修施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本感染症学会認定研修施設、日本血液学会血液研修施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本神経学会教育施設、日本リウマチ学会教育施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本認知症学会専門医教育施設、日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設、日本内分泌学会認定教育施設、日本透析医学会教育関連施設

## 5 1. 山梨県立中央病院

責任者名 梅谷 健  
責任者診療科名 循環器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数（科）	9（2023.4現在）
病床数（床）	644（2023.4現在）
内科系病床数（床）	180（概数）（2023.4現在）
外来患者数（人）	311,224（2022実績）
内科系外来患者数（人）	100,734（2022実績）
入院患者数（人）	14,609（2022実績）
内科系入院患者数（人）	51,595（2022実績）

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数（人）※非常勤含む	18（2023.4現在）
内科指導医数（人）※常勤医のみ	18（2023.4現在）
総合内科専門医数（人）	18（2023.4現在）

#### 3) 剖検数

内科剖検数（件）	7（2022実績）
----------	-----------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	◎	◎	◎	◎

評価（4段階評価）

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・地方独立法人山梨県立病院機構の非常勤医師として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。
- ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は18名在籍しています。
- ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（梅谷健循環器病センター統括部長）、プログラム管理者（梅谷健統括部長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と職員研修センターを設置します。
- ・医療倫理・医療安全・感染管理研修会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的で開催（2021年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：MSGR：Medical Surgical Grand Round、がんセンターボード、バスキュラーボード、地域連携研修会、緩和ケア勉強会、特別講演会を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に職員研修センターが対応します。
- ・特別連携施設の専門研修では、電話や週1回の山梨県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
- ・70疾患群のうち神経内科領域を除く全疾患群について研修できます（上記）。
- ・専門研修に必要な剖検（2022年度実績7体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています。
- ・治験管理室を設置し、定期的を受託研究審査会を開催しています。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。



## 5 2 . 北信総合病院

責任者名 千秋 智重

責任者診療科名 呼吸器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	5	(2024.4現在)
病床数 (床)	419	(2024.4現在)
内科系病床数 (床)	127	(2024.4現在)
外来患者数 (人)	256,800	(2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	98,878	(2023年実績)
入院患者数 (人)	144,010	(2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	68,625	(2023年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	11	(2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	8	(2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	9	(2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	1	(2023年実績)
-----------	---	-----------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	3回
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	年間1-2題



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

・臨床研修指定病院である。

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法に準じる。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含む）、福利厚生（健康保険、年金、住居補助、健康診断など）、労働災害補償などについては、長野県厚生連の就業規則等に従う。

	専門研修1年次	専門研修2年次	専門研修3年次
基本給	約475,000円	約500,000円	約523,000円
夜間当直手当	13,000円+超過勤務手当4時間		
総支給額(月)	約580,000円	約610,000円	約650,000円

※ 夜間当直手当の超過勤務手当は個人により異なる。  
 ※ 同月内で2回以上指日直を行った場合は回数を降は次の金額が加算される。  
 2回目:+10,000円 3回目:+20,000円 4回目:+30,000円  
 ※ 総支給額は指日直の回数等により変動する。  
 ※ 総支給額に超過勤務手当は含まれない。  
 ※ 他、年2回の賞与あり。

- ・メンタルストレスに適切に対処する部門として衛生委員会が設置されている。
- ・ハラスメント防止対策の職員が配置され、人事課および長野県厚生連に苦情相談員が置かれている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、女性医師用の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・院内保育園（たんぼ保育園）が利用可能である。病児・病後児保育も可能である。
- ・医師専用の住宅を用意しており、無償で貸与している。
- ・赴任にかかる費用の補助がある（上限金額あり）。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科指導医が8名在籍している。
- ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。
- ・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・CPC を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。（2023年度開催実績3回）
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
- ・施設実地調査については研修管理委員会が対応する。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70疾患群のうち、ほぼすべての疾患群について研修できる。
- ・専攻研修に必要な剖検数については本院で実施できる。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・倫理委員会が設置されている。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で2題の学会発表を行っている。（2022年度実績）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 千秋 智重

北信総合病院は、長野県の北信医療圏における中核病院として優れた診療を行う内科医師を育成しています。当院は経験豊かな指導医が在籍しており各科の協力が良好であるので、経験していない疾患も気軽に声をかけてもらえるため、効率的に研修することができます。また地域で唯一の総合病院でもあるので、豊富で多様な疾患を経験することができます。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	8	3	1	5	0	3	1	1	0	3	0	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群目表）にある13領域すべて、70疾患群のうち66疾患群の症例を幅広く経験することができる。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携および行政との連携を含む地域包括ケアの構築等も経験できる。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医教育施設、日本高血圧学会認定研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会認定施設、日本認知症学会専門医教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設

## 5 3. 組合立諏訪中央病院

責任者名 林 大吾

責任者診療科名 脳神経内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	14 (2024.3現在)
病床数 (床)	360 (2024.3現在)
内科系病床数 (床)	230 (2024.3現在)
外来患者数 (人)	206,744 (2021年実績)
内科系外来患者数 (人)	110,420 (2021年実績)
入院患者数 (人)	7,184 (2021年実績)
内科系入院患者数 (人)	4,694 (2021年実績)



#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	0 (2022.3現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	16 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	12 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	3 (2022年実績)
-----------	-------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催予定
臨床研究センター	あり
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間3題以上

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 組合立諏訪中央病院における会計年度任用職員として労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課庶務係）があります。
- ハラスメント委員会が院内に整備されています。
  - 女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- 指導医は16名在籍しています。（2023年度末時点）
- 内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022年度実績：各1回）して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPCを定期的で開催（2022年度実績：5回）して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 地域参加型カンファレンス（病院・開業医合同勉強会『二水会』（例年4回開催、2022年度は感染対策のため中止）、地域合同カンファレンス（例年4回開催、2022年度は感染対策のため中止））を定期的で開催して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- 研修施設群合同カンファレンス（内科ケースカンファレンス）を定期的で開催して専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- カリキュラムに示す内科領域13分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- 専門研修に必要な剖検（2021年度5体、2022年度3体）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- 臨床研究に必要な図書室等を整備しています。
- 倫理委員会を設置/開催しています。
- 臨床研修・研究センターを設置して研究に関するとりまとめを行っています。
- 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 若林 禎正

【内科専攻医へのメッセージ】  
 患者のどのような訴えにも耳を傾け、その原因となる疾患を明らかにし、専門治療が必要な場合には迅速に専門医へ紹介する能力を養います。先進医療だけではなく、回復期リハビリ病棟でのケアや慢性疾患に対する外来診療、通院ができない場合には訪問診療・往診をし、シームレスで患者や家族の生活に寄り添う医療を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	12	2	1	2	0	0	0	3	0	2	0	3	2	0	2

7) 経験できる疾患群

研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、救急の分野で症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定病院総合医養成プログラム施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定新家庭医療後期研修プログラム施設、日本東洋医学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本静脈経腸栄養学会・NST稼働施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本消化器病学会関連施設、日本在宅医学会認定在宅医療研修プログラム施設、日本腎臓学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本リウマチ学会教育施設、日本感染症学会認定研修施設、日本臨床神経生理学会準教育施設、他

## 5 4 . 佐久総合病院

責任者名 三石 俊美

責任者診療科名 内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	12 (2022.4現在)
病床数 (床)	309 (2022.4現在)
内科系病床数 (床)	141 (2022.4現在)
外来患者数 (人)	201,973 (2022年度実績)
内科系外来患者数 (人)	92,062 (2022年度実績)
入院患者数 (人)	3,342 (2022年度実績)
内科系入院患者数 (人)	1,644 (2022年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	—
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	12 (2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	8 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0 (2022年度実績)
-----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催予定
CPCの開催回数	未定
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催予定
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	活動予定



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	△	△	△	△	△	△	△	◎	△	◎	○	○

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

※実際の研修受け入れ可否につきましては、その都度の相談となります。

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・長野県厚生連勤務医師として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
- ・ハラスメント委員会が整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、当直室が整備されています。
- ・院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は12名在籍しています（下記）。
- ・専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（佐久医師会勉強会、Subspecialty研究会）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、神経の分野で定期的に専門研修が可能なほか、その他の分野の症例も経験できます。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。
- ・臨床研究・治験センターを設置し、定期的に行っています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 副院長 兼 統括内科部長 三石 俊美

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	8	0	0	2	0	1	0	0	1	4	0	1	0	0	0

7) 経験できる疾患群

13領域、70疾患群のうち、総合内科、脳神経、内分泌、代謝、腎臓の各分野の診療を経験することができます。歴史ある地域に根ざした病院であり、全人的医療を実践する場です。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

慢性期疾患や在宅医療、健康管理などの地域に根ざした医療や病病・病診連携のみならず、介護福祉連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本神経学会専門医制度准教育施設、日本透析医学会教育関連施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設、日本プライマリ・ケア連合学会病院総合医養成プログラム認定、日本リウマチ学会教育施設 ほか

## 5 5. 佐久総合病院佐久医療センター

責任者名 矢崎 善一  
責任者診療科名 循環器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数(科)	16 (2022.4現在)
病床数(床)	450 (2022.4現在)
内科系病床数(床)	173 (2022.4現在)
外来患者数(人)	211,962 (2022年度実績)
内科系外来患者数(人)	85,739 (2022年度実績)
入院患者数(人)	13,023 (2022年度実績)
内科系入院患者数(人)	4,665 (2022年度実績)



#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数(人) ※非常勤含む	—
内科指導医数(人) ※常勤医のみ	26 (2024.4現在)
総合内科専門医数(人)	24 (2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数(件)	2 (2022年実績)
----------	-------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催予定
感染対策講習会	開催予定
CPC	開催予定
CPCの開催回数	未定
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催予定
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	活動予定

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△	○	△	○	◎

評価(4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

※実際の研修受け入れ可否につきましては、その都度の相談となります。

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・長野県厚生連勤務医師として勤務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。
- ・ハラスメント委員会が整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・指導医は26名在籍しています（下記）。
- ・専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会(研修委員会を兼ねる)を設置し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・地域参加型のカンファレンス（佐久医師会勉強会、Subspecialty研究会）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修管理委員会が対応します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。
- ・専門研修に必要な剖検を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・臨床研究に必要な図書室を整備しています。
- ・倫理委員会を設置し、定期的に行っています。
- ・臨床研究・治験センターを設置し、定期的に研究審査委員会を開催しています。
- ・日本内科学会講演会、あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 副院長 兼 統括内科部長 矢崎 善一

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	24	12	4	11	1	4	2	1	3	0	1	0	1	0	7

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

専門医療と救急・急性期医療に特化した地域医療支援病院として地域に根ざした医療や、病病・病診連携などが経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本透析医学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本感染症学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設！ ほか

## 5 6 . 静岡市立清水病院

責任者名 吉富 淳  
責任者診療科名 呼吸器内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	6	(2023年度実績)
病床数 (床)	463	(2023年度実績)
内科系病床数 (床)	108	(2023年度実績)
外来患者数 (人)	164,443	(2023年度実績)
内科系外来患者数 (人)	47,107	(2023年度実績)
入院患者数 (人)	118,027	(2023年度実績)
内科系入院患者数 (人)	36,106	(2023年度実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	12	(2024年4月現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	12	(2024年4月現在)
総合内科専門医数 (人)	9	(2024年4月現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0	(2023年度実績)
-----------	---	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし	
医療倫理講習会	開催	
医療安全講習会	開催	
感染対策講習会	開催	
CPC	開催	
CPCの開催回数	4	
研修施設群合同カンファレンス	予定なし	
地域参加型カンファレンス	開催	
倫理委員会	開催	
臨床研究センター	あり	※治験・臨床研究管理室
治験センター	あり	※治験・臨床研究管理室
内科学会活動	年間1-2題	



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	◎	◎	◎	△	△	△	◎	△	◎	○	△	△	◎

評価 (4段階評価)

- ◎研修できる
- 時に経験できる
- △ほとんど経験できない
- ×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- 静岡市の正規職員としての労務環境が保障されています。
- メンタルストレスに適切に対処する部署（病院経営企画課）があります。
- ハラスメント委員会（医療安全管理委員会内）が静岡市立清水病院内に整備されています。
- 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- 指導医が12名在籍しています。
- 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。
- 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。  
(2023年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回)
- 研修施設群合同カンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- CPCを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。(2023年度実績 CPC4回)
- 地域参加型のカンファレンスを定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。  
(2023年度実績 感染管理地域連携カンファレンス8回)

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、呼吸器、神経、循環器、消化器の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を予定しています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 吉富 淳

【内科専攻医へのメッセージ】  
 静岡市立清水病院は静岡県の中部、静岡市に位置する地域の中核的な病院です。  
 東京医科歯科大学等との連携により充実した専門医研修が可能となっています。豊富な症例経験を通して、サブスペシャリティー分野の専門医取得も視野に入れ、十分な臨床力を持つ内科専門医を目指した研修を行い、地域貢献のみならず、日本の内科学発展に寄与できる医師の育成を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 肝 臓	4 循 環 器	5 内 分 泌	6 腎 臓	7 糖 尿 病	8 呼 吸 器	9 血 液	10 神 経	11 ア レ ル ギ ー	12 リ ウ マ チ	13 感 染 症	14 老 年 病	15 救 急
人数	9	8	2	3	0	0	0	6	0	2	3	0	2	0	1

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、61疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本アレルギー学会認定教育施設	日本医学放射線学会専門医修練協力機関
日本環境感染症学会教育施設	日本感染症学会専門医研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本呼吸器学会認定施設	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設	日本消化器病学会認定施設
日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働認定施設	日本神経学会教育認定施設
日本内科学会認定教育施設	日本認知症学会教育施設
日本脳卒中学会研修教育病院	日本麻酔科学会研修施設
日本輸血細胞治療学会 I & A 認定施設	日本リハビリテーション医学会研修施設
日本臨床細胞学会認定施設	認定輸血検査技師研修指定施設

## 5 7. 国際医療福祉大学熱海病院

責任者名 山田 佳彦

責任者診療科名 糖尿病・代謝・内分泌内科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数(科)	8 (2024.4現在)
病床数(床)	269 (2024.4現在)
内科系病床数(床)	100 (2024.4現在)
外来患者数(人) ※延数	161,123 (2023年実績)
内科系外来患者数(人)	63,230 (2023年実績)
入院患者数(人) ※延数	63,550 (2023年実績)
内科系入院患者数(人)	26,354 (2023年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数(人) ※非常勤含む	8 (2023.4現在)
内科指導医数(人) ※常勤医のみ	7 (2023.4現在)
総合内科専門医数(人)	11 (2023.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数(件)	10 (2023年実績)
----------	--------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催予定
医療倫理講習会	開催予定
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	10回
研修施設群合同カンファレンス	開催予定
地域参加型カンファレンス	開催予定
倫理委員会	開催
臨床研究センター	設置予定
治験センター	設置予定
内科学会活動	年間1-2題



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1 総合 内科	2 消 化 器	3 循 環 器	4 内 分 泌	5 代 謝	6 腎 臓	7 呼 吸 器	8 血 液	9 神 経	10 ア レ ル ギ ー	11 膠 原 病	12 感 染 症	13 救 急
評 価	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	△	○	◎

評価(4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・初期臨床研修基幹型研修指定病院です。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・国際医療福祉大学グループとして労働環境が保障されています。
- ・メンタルヘル스에適切に対処する部署（公認心理士が担当）があります。
- ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・当直室が整備されています。
- ・敷地内に託児室があり利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設 連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付けます。
- ・定期的に行う内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深めます。
- ・CPCを定期的に行い、専攻医に受講を義務付けています。
- ・当直医として内科領域救急診療、更に当直医としての病棟急変等の経験を積むことができます。
- ・専攻医にJMECC受講の機会を与えています。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・カリキュラムに定める内科領域13分野で定期的に専門研修が可能な症例を診療している。
- ・70疾患群のうち、各年次の到達目標に応じた疾患群について研修できる。
- ・研修医に必要な剖検（2023年実績11件）を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・日本内科学会学術講演会あるいは同地方会で学会発表を行っています。
- ・内科系学会の講演会等で学会発表を行っています。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 山田 佳彦

国際医療福祉大学グループでは、大学附属病院として最先端の高度専門医療を提供するために各専門領域の優れた医師と最新の医療機器・設備を備えております。高度な専門知識と質の高い診断・治療技術を身に付けるとともに地域に根ざした全人的な診療を実践できる医師に成長できることを目指して専門研修を行います。静岡県東部地区の医療圏、近隣医療圏にある連携施設に加えてグループ施設の都市部の医療圏や異なる県域での内科専門研修を経て熱海・伊東医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるような研修プログラムとなっています。内科専門医として基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科のGeneralityを獲得する場合や内科領域Subspecialty専門医への道を歩む場合を想定した研修を行えるプログラムにて将来の地域医療を支える内科専門医の育成を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	8	4	3	2	2	2	2	2	0	3	1	0	0	0	1

7) 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除き幅広い症例を経験できます。高齢者に多くみられる、呼吸器・循環器・消化器・内分泌・代謝・感染症・悪性腫瘍・脳卒中などの疾患を豊富に経験できる。

8) 経験できる技術・技能

内科専門医に必要な臨床技術・治療を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、回復期医療や高齢化率47%の超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診連携・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会認定制度教育病院、日本循環器学会認定循環器専門研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本神経学会専門医制度准教育施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本高血圧学会研修施設、日本救急医学会認定救急科専門医指定施設、日本脳ドック学会認定施設

## 5 8 . 公立邑智病院

責任者名 上田 智広

責任者診療科名 総合診療科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	1	(2024.4現在)
病床数 (床)	98	(2024.4現在)
内科系病床数 (床)	98	(2024.4現在)
外来患者数 (人)	49,683	(2023年実績)
内科系外来患者数 (人)	15,257	(2023年実績)
入院患者数 (人)	30,573	(2023年実績)
内科系入院患者数 (人)	22,252	(2023年実績)

#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	1	(2024.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	1	(2024.4現在)
総合内科専門医数 (人)	1	(2024.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	0	(2024.4現在)
-----------	---	------------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	予定なし
医療倫理講習会	予定なし
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	予定なし
CPCの開催回数	
研修施設群合同カンファレンス	予定なし
地域参加型カンファレンス	予定なし
倫理委員会	開催
臨床研究センター	予定なし
治験センター	予定なし
内科学会活動	活動予定



### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

診療科目は内科（総合診療科）・外科・小児科・産婦人科・麻酔科・歯科・整形外科・泌尿器科・精神科・皮膚科の合計10科で病床数は98床（急性期一般病床57床・地域包括ケア病床41床）です。

- ・常勤医師としての勤務環境が保証されています。
- ・研修に必要な図書室やインターネット環境（W i F i）があります。
- ・研修内容や生活面など企画調整課が相談窓口となり丁寧に対応します。基幹施設と常に連携を取りながら適切に対処していきます。
- ・病院の近隣に家電付き医師住宅を完備しております。
- ・専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、当直室等が整備されています。
- ・託児事業（公立邑智病院ファミリーサポート事業）があり、安心して当直や研修が継続できるよう支援しています。
- ・病院に隣接した病児保育室「コスモス」があります。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・常勤医師12名で、その内、内科・総合診療科医師が5名います。
- ・倫理委員会・医療安全研修会・感染対策研修会を定期的に開催し、専攻医が受講できるよう配慮します。
- ・研修施設群合同カンファレンスに定期的な参画を行い、専攻医が参加できるよう調整と計画を行います。
- ・地域の医療・介護・福祉関係者で構成する「情報交換会」を定期的に開催し、患者の社会的背景や地域の医療・介護資源が見えるよう、専攻医が参加できる環境を整えています。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー及び膠原病の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 酒井 和久

公立邑智病院は人口約18,000人の邑智郡内唯一の救急告示病院です。年間700から800台の救急車の受け入れがあります。ほぼすべての救急患者を受け入れ、診断し、緊急手術や心臓カテーテル治療といった侵襲的かつ専門的治療は第三次救急医療機関へ搬送し、可能な限りの救急疾患患者の入院治療を行います。平成26年から地域包括ケア病床を立ち上げ、要介護状態になっても、住み慣れた地で自立した自分らしい生活を人生の最後まで続けられるよう支援を行っています。患者さんに寄り添った包括的な医療が行えるよう、研修体制を整えています。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1 総合内科	2 消化器	3 肝臓	4 循環器	5 内分泌	6 腎臓	7 糖尿病	8 呼吸器	9 血液	10 神経	11 アレルギー	12 リウマチ	13 感染症	14 老年病	15 救急
人数	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

7) 経験できる疾患群

極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。具体的には、すべての疾患の診断と初期治療、感染症・心不全・脳血管疾患・緩和ケアなどの入院外来治療や上部消化管内視鏡検査、胸部・腹部超音波検査を経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病病連携、病診連携、退院支援、退院調整会議や個別ケース検討会への出席、主治医意見書の作成など経験することができます。

10) 学会認定施設（内科系）

地域包括医療・ケア認定施設

## 5 9 . 飯塚病院

責任者名 井村 洋

責任者診療科名 総合診療科

### 1. 連携施設の概要

#### 1) 診療科数・病床数・患者数情報

内科系診療科数 (科)	17	(2023.4現在)
病床数 (床)	1,048	(2023.4現在)
内科系病床数 (床)	570	(2023.4現在)
外来患者数 (人)	24,172	(2022実績) 年間新外来患者数 (臨床研修年次報告と連動)
内科系外来患者数 (人)	7,242	(2022実績) 年間新外来患者数 (臨床研修年次報告と連動)
入院患者数 (人)	19,281	(2022実績) 年間入院患者数 (新入患者数) (臨床研修年次報告と連動)
内科系入院患者数 (人)	10,983	(2022実績) 年間入院患者数 (新入患者数) (臨床研修年次報告と連動)



#### 2) 指導医・専門医数情報

内科指導医数 (人) ※非常勤含む	15	(2023.4現在)
内科指導医数 (人) ※常勤医のみ	15	(2023.4現在)
総合内科専門医数 (人)	56	(2023.4現在)

#### 3) 剖検数

内科剖検数 (件)	10	(2022実績)
-----------	----	----------

#### 4) 講習会等の開催

JMECC	開催
医療倫理講習会	開催
医療安全講習会	開催
感染対策講習会	開催
CPC	開催
CPCの開催回数	5回
研修施設群合同カンファレンス	開催
地域参加型カンファレンス	開催
倫理委員会	開催
臨床研究センター	あり
治験センター	あり
内科学会活動	年間3題以上

### 2. 連携施設の13領域における研修可能性の評価

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
評価	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

評価 (4段階評価)

◎研修できる

○時に経験できる

△ほとんど経験できない

×まったく経験できない

### 3. 連携施設における研修環境について

#### 1) 専攻医の環境（認定基準【整備基準23】）

- ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
- ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線LAN, Wi-Fi）があります。
- ・ 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。
- ・ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります。医務室には産業医および保健師が常駐しています。
- ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・ 敷地内に24時間対応院内託児所、隣接する施設に病児保育室があり、利用可能です。

#### 2) 専門研修プログラムの環境（認定基準【整備基準23】）

- ・ 指導医は15名在籍しています（下記）。
- ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。
- ・ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する、内科専門研修委員会を設置します。
- ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2022年実績 医療倫理5回、医療安全6回、感染対策4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ CPC を定期的で開催（2022年実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
- ・ 特別連携施設の専門研修では、症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います。なお、研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。
- ・ 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。

#### 3) 診療経験の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
- ・ 70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも45以上の疾患群）について研修できます。
- ・ 専門研修に必要な剖検を行っています。

#### 4) 学術活動の環境（認定基準【整備基準24】）

- ・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
- ・ 倫理委員会を設置し、定期的を開催しています。
- ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。
- ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。

5) 指導責任者から専攻医へのメッセージ

指導責任者名 増本 陽秀

飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて、プライマリ・ケアから高度急性期医療、地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます。米国ピッツバーグ大学の教育専門医と、6年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た、教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。  
 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です。将来のキャリアパスが決定している方、していない方、いずれに対しても価値のある研修を行います。

6) 学会別専門医数内訳

領域	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	総合内科	消化器	肝臓	循環器	内分泌	腎臓	糖尿病	呼吸器	血液	神経	アレルギー	リウマチ	感染症	老年病	救急
人数	56	21	4	9	1	2	1	9	4	5	3	8	1	0	3

7) 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。

8) 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

9) 経験できる地域医療・診療連携

急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10) 学会認定施設（内科系）

日本内科学会 教育病院、日本救急医学会 救急科指定施設、日本消化器病学会 認定施設、日本循環器学会 研修施設  
 日本呼吸器学会 認定施設、日本血液学会 研修施設、日本糖尿病学会 認定教育施設、日本腎臓学会 研修施設  
 日本肝臓学会 認定施設、日本神経学会 教育施設、日本リウマチ学会 教育施設、日本臨床腫瘍学会 研修施設  
 日本消化器内視鏡学会 指導施設、日本消化管学会 胃腸科指導施設、日本呼吸器内視鏡学会 認定施設  
 日本呼吸療法医学会 研修施設、飯塚・頼田家庭医療プログラム、日本緩和医療学会 認定研修施設  
 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設、日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設  
 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設A、日本胆道学会指導施設、日本がん治療医認定医機構 認定研修施設  
 日本透析医学会 認定施設、日本高血圧学会 認定施設、日本脳卒中学会 研修教育病院、日本臨床細胞学会 教育研修施設  
 日本東洋医学会 研修施設、日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設、日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設 など

# 指導医マニュアル

## 目次

1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割……………2
2. 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法，ならびにフィードバックの方法と時期  
……………2
3. 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準……………3
4. 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)の利用方法……………3
5. 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いた指導医の指導状況把握……………3
6. 指導に難渋する専攻医の扱い……………3
7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇……………4
8. FD 講習の出席義務……………4
9. 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用……………4
10. 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先……………4
11. その他……………4  
(資料1) 内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について……………5

文中に記載されている『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は，日本内科学会から示されている基準に準拠しました。

# 東京医科歯科大学病院内科専門研修プログラム 指導医マニュアル

## 1. 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1人の担当指導医に専攻医1人が東京医科歯科大学内科専門研修プログラム研修委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医がwebにて日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)での専攻医による症例登録の評価や研修委員会からの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医はSubspecialtyの上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医とSubspecialtyの上級医は、専攻医が充足していない疾患群内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医はSubspecialty上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修(専攻医)2年次修了時まで合計29症例の病歴要約を作成することを促し、日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読・評価で受理(アクセプト)されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

## 2. 専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は、東京医科歯科大学内科専門研修プログラムで求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとおりです(p.5資料1参照)。
- 担当指導医は、6か月ごとに日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、毎年7~9月と1~3月に自己評価と指導医評価、ならびに360度評価を行います。評価終了後、1か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

### 3. 個別の症例経験に対する評価方法と評価基準

- 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)での専攻医による症例登録の評価を行います。
- 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

### 4. 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)の利用方法

- 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる360度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全29症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医はその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- 担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

### 5. 逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、東京医科歯科大学内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

### 6. 指導に難渋する専攻医の扱い

年2回行われる日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)による専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価および多職種による360度評価を参考にしながら、専攻医による自己評価と担当指導医や上級医からの内科専攻医評価および360度評価を臨時で行い、担当指導医は内科専攻医へのフィードバックを行います。フィードバックにあたっては具体的な指導内容を専攻医に明確に示します。しかし、専攻医に改善が認められない場合には再度評価を行い、その結果を基に東京医科歯科大学内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。一向に改善が見られない場合は、担当指導医の変更、プログラム内研修施設の変更や在籍する専門研修プログラムの移動または中断勧告などを行います。

なお、詳細については研修プログラム冊子項目18.「研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件」を参考にして下さい。

## 7. プログラムならびに各施設における指導医の待遇

東京医科歯科大学，連携施設の就業規則および給与規定によります。

## 8. FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。

## 9. 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり，指導法の標準化のため，日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を熟読し，形式的に指導します。

## 10. 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先

日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

## 11. その他

特になし。

(資料1)

内科専門研修において求められる「疾患群」, 「症例数」, 「病歴提出数」について

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数
分野	総合内科I(一般)	1	1 <sup>※2</sup>	1		2
	総合内科II(高齢者)	1	1 <sup>※2</sup>	1		
	総合内科III(腫瘍)	1	1 <sup>※2</sup>	1		
	消化器	9	5以上 <sup>※1※2</sup>	5以上 <sup>※1</sup>		3 <sup>※1</sup>
	循環器	10	5以上 <sup>※2</sup>	5以上		3
	内分泌	4	2以上 <sup>※2</sup>	2以上		3 <sup>※4</sup>
	代謝	5	3以上 <sup>※2</sup>	3以上		
	腎臓	7	4以上 <sup>※2</sup>	4以上		2
	呼吸器	8	4以上 <sup>※2</sup>	4以上		3
	血液	3	2以上 <sup>※2</sup>	2以上		2
	神経	9	5以上 <sup>※2</sup>	5以上		2
	アレルギー	2	1以上 <sup>※2</sup>	1以上		1
	膠原病	2	1以上 <sup>※2</sup>	1以上		1
	感染症	4	2以上 <sup>※2</sup>	2以上		2
	救急	4	4 <sup>※2</sup>	4以上		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計 <sup>※5</sup>		70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7) <sup>※3</sup>
症例数 <sup>※5</sup>		200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。

病歴要約はすべて異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例, 「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期研修時の症例は、本研修プログラムの管理委員会が認める内容に限り、その登録が認められる(最大80症例を上限とすること、病歴要約への適用については最大14使用例を上限とすること)。